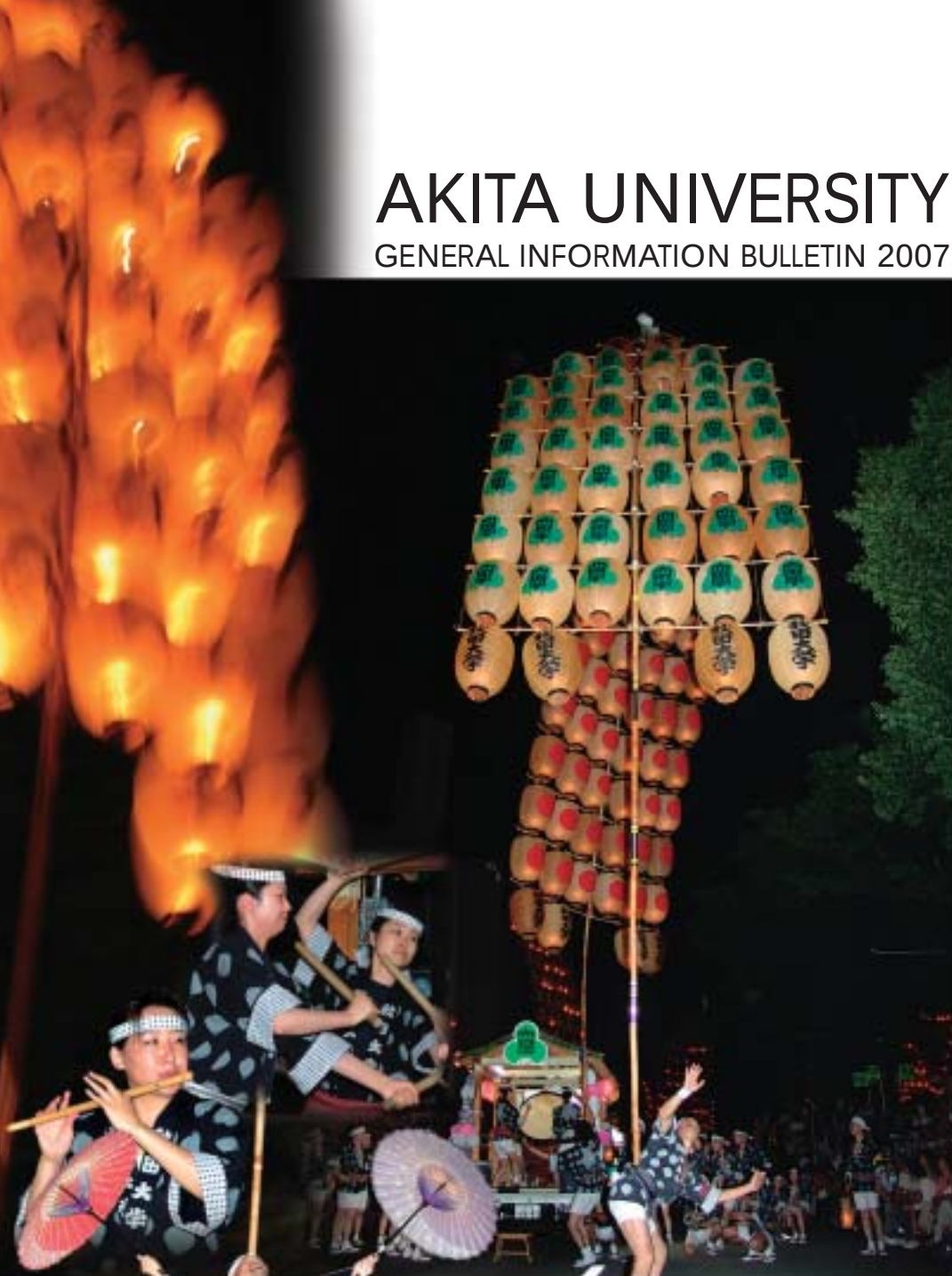


AKITA UNIVERSITY

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2007



平成19年度

秋田大学概要



目次

- 1 学長あいさつ
- 2 基本理念・基本的目標・教育目標
- 3 中期目標・中期計画
- 5 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)
- 6 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い
医療人養成推進プログラム(医療人GP)
- 8 沿革
- 10 運営組織
- 11 教育研究組織
- 12 事務組織
- 13 役職員
- 14 教育文化学部・教育学研究科・特殊教育特別専攻科
- 16 医学部・医学系研究科
- 18 工学資源学部・工学資源学研究科
- 20 医学部附属病院
- 22 附属図書館
- 23 教育文化学部附属学校園
- 24 学部附属教育研究施設
- 26 鉱業博物館
- 27 就職支援活動
- 28 センター及び機構
- 30 学内共同教育研究施設等
- 32 福利厚生施設等
- 33 体育施設等
- 34 東京サテライト
- 35 工学資源学部通信教育講座
- 36 平成19年度大学開放事業
- 37 平成19年度主な課外行事
- 38 手形地区施設配置図
- 40 本道地区施設配置図
- 41 保戸野地区施設配置図
- 42 位置図及び所在地
- 44 入学志願者・入学状況
- 45 学生の定員・現員
- 48 出身高校所在地別在学生分布図
- 49 卒業者数・修了者数
- 50 卒業者等就職状況
- 51 学位授与数／日本学生支援機構奨学生
- 52 平成18年度学生表彰受賞者
- 53 外国人留学生数
- 54 国際交流協定校・外国人研究員・非常勤研究員・外国人客員研究員
- 55 平成19年度公開講座
- 56 役員数
教職員数
- 57 平成19年度予算
- 58 外部資金受入状況
平成19年度科学研究費補助金採択状況
- 59 刊行物等一覧
- 60 土地・建物

学 年 暦

学 年

前 期 …………… 4月1日～9月30日

後 期 …………… 10月1日～3月31日

式(平成19年度)

入学式 …………… 4月6日

卒業式 …………… 3月22日

休 業(平成19年度)

春季休業 …………… 2月23日～4月4日

夏季休業 …………… 8月4日～9月30日

冬季休業 …………… 12月26日～1月8日

学章

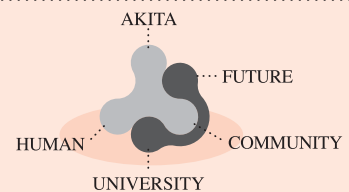


秋田大学の学章については、昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として、懸賞募集の結果、臨時評議会において1等当選となった図案である。3枚の秋田落の葉に、大学の文字を配したもので、当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案になる。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが、平成16年4月1日学章として定められ、同時に校旗の制式も定められた。

ロゴマーク



AKITA UNIVERSITY



それぞれの円には、上の5つの意味を込めている。また、オレンジの形の3頂点は秋田大学の3学部の存在を表している。



オレンジの形にはAkitaの‘A’を、ブルーの形にはUniversityの‘U’のイメージを持たせている。

国立大学法人秋田大学の発展を目指して



国立大学法人秋田大学長 三浦 亮

秋田大学は平成16年度を期して、国立大学法人として新たな門出を迎えました。しかし、予算の大半が国からの運営費交付金すなわち国民の税金と、学生納付金によることは従来と同様であり、常に国民・社会への奉仕、貢献を念頭に置き、学習者中心の教育を行うことは基本的に変わりません。

本学はこれまでも、国際的なレベルの人材の育成、研究の遂行と地域社会を始めとする社会への貢献を果たして参りました。

その実績は「優れた研究・教育拠点 COE:Center of Excellence」、
「特色ある大学教育支援プログラム GP:Good Practice」に常に初年度から採択されたこと、さらに、平成19年度から新たに

始まった「グローバルCOEプログラム」に採択されたことは、伝統ある実績に支えられた本学の实力と将来への構想力が優れている結果と自負しております。

国民の支持・支援によって成り立っている本学が、国民・社会と全国から集まった学生の皆さんの期待に応え得る大学として、さらに発展するため全力を尽くします。

さらに、本学の教育研究活動につきましては、本年3月に大学評価・学位授与機構による大学機関別評価で、「大学評価基準を満たしている」と認定を受けました。

歴代学長

氏 名	任 期	氏 名	任 期	氏 名	任 期
劔 木 亨 弘*	昭24. 5.31~昭24. 7.30	伊 藤 泰 一	昭41. 3. 1 ~昭44. 6. 9	渡 部 美 種	昭61. 2.23~平 3 . 2.22
池 田 謙 三*	昭24. 7.31~昭25. 5. 5	藤 島 主 殿*	昭44. 6.10~昭46. 2.22	新 野 直 吉	平 3 . 2.23~平 8 . 2.22
佐 野 秀之助	昭25. 5. 6 ~昭30.12.24	渡 邊 武 男	昭46. 2.23~昭51. 2.22	徳 田 弘	平 8 . 2.23~平13. 2.22
五十嵐 勇*	昭30.12.25~昭31. 2.29	九 嶋 勝 司	昭51. 2.23~昭56. 2.22	三 浦 亮	平13. 2.23~
渡 邊 萬次郎	昭31. 3. 1 ~昭41. 2.28	梅 津 良 之	昭56. 2.23~昭61. 2.22		

*は、事務取扱を表す。

基本理念・基本的目標・教育目標

The Mission, Goal, and Educational Objective

秋田大学は、下記の基本理念を定め、それを達成するための5つの基本的目標をもって、活動を推進します。また、特に養成する人材像を教育目標として定め、教育にあたります。

基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1. 「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成します。
2. 基礎から応用までの研究、特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。
3. 地域と共に発展し、地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
4. 国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
5. 学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

教育目標

(学部)

1. 社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、社会の発展に貢献できる人材を養成します。
2. 地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します。
3. 国際人として通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を養成します。

(大学院)

1. 国際人として通用する、高度な専門性・独創性と倫理性を備えた人材を養成します。
2. 専門性の高い研究能力を備え、指導者になりうる人材を養成します。

中期目標・中期計画

Mid-term Objectives and Plan

秋田大学は法人化にいかに対応していくか ：中期目標・中期計画に基づく発展の方策

中期目標・中期計画とは、全国の国立大学それぞれが法人化後6年間で行う取り組みを自主的にまとめたもので、大学は、これを確実に実施することによって、本来の使命を果たすとともに、法人化後の競争的資源配分方式のもとで健全な運営ができる強力な体質をつくることができます。この中期目標・中期計画を着実に実施するためには、6年間の各年度ごとに具体的達成目標をたて(これを「年度計画」といいます。),その達成度を自己評価しながら各事業を進める必要があります。

本学では、中期目標・中期計画が大学の将来を左右するものととらえ、その実現に向けて鋭意取り組んでおり、その具体的内容は次のようになります。

◆本学の基本理念・中期目標・中期計画

○本学では次の3点を基本理念とし、その基盤の上に中期目標・中期計画を設定しました。

- (1)国際的な水準の教育・研究を遂行します。
- (2)地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
- (3)国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

○基本的目標としては次の5項目を設定しました。

- (1)「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を育成します。
- (2)基礎から応用までの研究、特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。
- (3)地域と共に発展し地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
- (4)国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
- (5)学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

中期計画はこの5つの基本的目標を実現する191項目の具体的措置からなっており、更に中期計画の内容に基づき、平成19年度において実施すべき事項を記載した年度計画を作成しております。

以下、中期計画中の教育、研究、社会貢献、国際交流に関する方策について述べます。

1.教育に関する発展方策

○本学独自の知的付加価値を追求した学生教育

「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度な倫理性を備えた、社会の発展に貢献できる人材を育成します。

そのため「教育推進総合センター」並びに「学生支援総合センター」を設置し、目標を実現するため教育システムを全学の教職員が協力して推進します。

○高等教育における教育方法開発計画の重点化

本学の全教職員が参加する宿泊型のFDワークショップ等を開催し、本学の教育的使命のより具体的な基盤環境づくりに取り組みます。

2. 研究に関する発展方策

- 「一定の基盤研究費の保証」と「基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクト」の形成
人文科学,基礎分野のように直ちに成果を期待できないが重要な学問分野,独自性の高いもの及び萌芽性のある一般研究等を興隆させると同時に本学の基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクトを推進します。
- 先端分野の教育・研究の積極的な推進
バイオサイエンスとレアメタルに関する2つの国際的な教育・研究拠点を形成するため,「バイオサイエンス教育・研究センター」及び「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」の拡充・整備に努めます。

3. 社会貢献に関する発展方策

- 産学官及び地域連携の推進
産業・医療・教育という観点から,「産学官連携・地域との共生」の本学の拠点として「地域共同研究センター」を拡充・整備します。
「社会貢献推進機構」を中心に人的・物的資源を総動員し,社会・地域・世界への貢献を推進し,地域との共生を図ります。
- 附属病院の充実
教育と研究の視座に医療を加えて,安全性や快適性の向上を目指した附属病院の再開発を推進し,最先端医療を提供すると同時に附属病院の経営の安定化を目指します。

4. 国際交流に関する発展方策

- 留学生受入の拡大と本学学生の海外留学推進
本学への留学生受入を拡大するために,「国際交流推進機構」を中心に,国際広報活動の活性化,国際的な教育研究の推進と支援を行います。また,学部留学生,大学院留学生や海外からの研究者が学習と研究に専念できる環境を整えます。一方,本学学生が海外で学習する機会を多くするための支援を行います。

◆中期目標・中期計画を達成するために

- 教育・研究・社会貢献・国際交流等の評価に関する「評価センター」の設置
一定の基準で自らを評価する機能を持つことが大学にとって不可欠であり,そのために「評価センター」を設置しました。その評価結果は,基本理念・中期目標を達成するための諸施策が効果的に機能しているかどうかを判断する役割,つまり効果的な諸施策となっているかどうかの検出機能の役割を果たすことが期待されます。これを活用することにより基本理念・中期目標を効果的に実現します。

特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)

Good Practice Program

「特色GP」とは

文部科学省が、平成15年度から、大学・短期大学の教育改善に資する種々の取組について、国公立を通じた公募により、特色ある優れたものを選定し、広く社会に情報提供するなど、今後の高等教育の改善に活用するために実施している事業です。平成18年度の応募数は、331件のうち48件が採択されました。

プロジェクトの概要

秋田大学では、「ゲーミング・シミュレーション型授業の構築—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—」という課題で応募し採択されました。このプロジェクトは、ゲーミング・シミュレーションを活用して、教室で実践可能な体験学習を取り入れ、学生や教員相互の学びの共同システムを構築して、教室における授業改善を図る試みです。ゲーミング・シミュレーションという手法は、シミュレーション、ロールプレイング、ゲーム等の体験的な活動を通して、対象の理解や問題の解決を図る方法論です。この方法論を活用し、教室における授業を変革し、学生が逞しく建設的に生きていく力、すなわち社会的実践力の育成に取り組んでいます。

○ 4つの観点からの取り組み

今回採択されたプログラムでは、

1)カリキュラムと教育方法改革

ゲーミング・シミュレーションを含めた体験的学習方法を取り入れたカリキュラムと授業について検討。

2)教員の資質向上

定期的なシンポジウム、授業参加、授業評価等を行い教員の資質向上と授業改革の推進。

3)教材開発と授業実践

教科教育等教員連絡会議における15の個別連絡会議ごとの学部・附属教員や教職教育研究会教員による教材開発と実践、北日本ゲーミング・シミュレーション研究会による最新研究の紹介や普及。

4)評価と再構成

各々の担当組織による評価、この評価を受けて特色GP委員会による計画の総合評価と再構成。という4つの観点から3年間の計画を立て展開することにしています。

○ 3年間の実施計画

平成18年度は「基盤作り」

ゲーミング・シミュレーションのワークショップ開催、教材作成、実践のための設備導入などを行います。

平成19年度は「普及と充実」

ゲーミング・シミュレーション型授業の実践を推進すると同時に、日本シミュレーション&ゲーミング学会の開催、教材集の発刊を実施します。

平成20年度は「成果公開と発展」

3年間の集大成を行い、成果を積極的に公開するため、シンポジウム開催、報告書作成、平成21年度以降の取組計画の立案を予定しています。

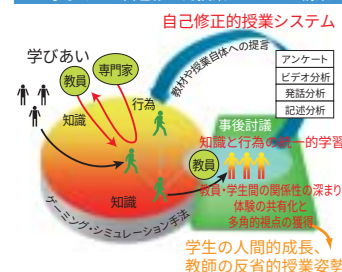
1. 体験的学習の体系的授業展開



2. 教員と学生及び外部エキスパートとの連携による授業構築



3. 学びあいと自己修正的授業システムの構築



社会的実践力の向上

本プログラムはゲーミング・シミュレーションという手法を核として、教室における体験的学習を実施することにより、大学教育における授業改善を図り、そのことを通じて学生の生きる力＝社会的実践力の向上が期待されます。

また、学習者に対する効果のみならず、体験的学習の体系的把握による授業改善、他分野の専門性を連携させた授業構築、学びあいと自己修正的授業のシステム構築がもたらされるなど、秋田大学の教育がより良い方向に変革していく効果が期待されます。

地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人GP)

Good Practice Program

「医療人GP」とは

文部科学省が、地域医療等社会的ニーズに対応したテーマ設定を行い、国公私立大学から申請された取組の中から、質の高い医療人を養成する特色ある優れた取組について財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、社会から求められる質の高い医療人の養成推進を図るために実施している事業です。

秋田大学では「地域拠点病院と大学病院との総合的教育連携-分野別医師偏在解消にむけての取組-」という課題で全国の11件の優れた取組の1つとして採択されました。

●取組の趣旨・目的

秋田県内の主な協力病院の4診療科の医師数は(図1,表1),秋田市を中心とする県中央部の病院(⑧~⑬,⑱)では小児科,産科,麻酔科で概ね3名以上在職しているが,県南の横手市・湯沢市の病院(⑮~⑰)では1~2名となり,県北の病院(①~⑦)ではさらに少なく,手術件数の減少,産科や小児科の閉鎖,救急医の労働条件の劣悪化など,深刻な事態を招いています。

また,臨床研修義務化の開始とともに秋田県内で研修を行う新卒者が減少しています。(表2)

4診療科の医師不足は他の診療科に対しても影響を及ぼし,当該病院のみならず秋田県全体の医療レベルの低下をも招きかねません。行政的な施策に加えて,医学教育の観点からも分野別医師偏在の問題解決に至急対応する必要があります。研修義務化制度を後退させるのではなく,医学生や研修医の意欲を喚起し,4診療科を前向きに選択するような環境の整備が求められています。

本取組では早期から4診療科に関心を持たせる優れた学部教育を行い,また協力病院と大学病院において共同で4診療科の研修指導を受けられるようにするなどの,学部教育から研修医教育にわたる総合的な連携を図っています(図2)。



①~⑦県北地区 ⑧~⑬,⑱中央地区 ⑭~⑰県南地区
(図1) 秋田県内の主な協力病院

(表1) 主な協力病院の4診療科の医師数 平成18年5月1日現在

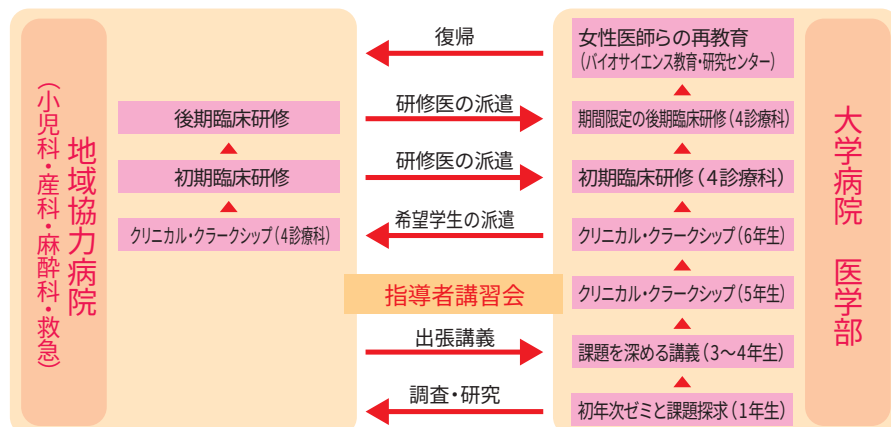
No.	病院名	所在地	小児科	産婦人科	麻酔科	救急	計(名)
①	大館市立総合病院	大館市	4	3	3	0	10
②	大館市立扇田病院	大館市	0	2※	0	0	0
③	秋田労災病院	大館市	0	0	1	0	1
④	鹿角組合総合病院	鹿角市	1	1	0	0	2
⑤	北秋中央病院	北秋田市	1	1	0	0	2
⑥	公立米内沢総合病院	北秋田市	1	0	0	0	1
⑦	山本組合総合病院	能代市	2	3	0	0	5
⑧	市立秋田総合病院	秋田市	2	3	3	1	9
⑨	秋田組合総合病院	秋田市	4	3	3	1	11
⑩	秋田赤十字病院	秋田市	5	5	3	3	16
⑪	中通総合病院	秋田市	3	4	5	0	12
⑫	由利組合総合病院	由利本荘市	3	4	4	0	11
⑬	本荘第一病院	由利本荘市	0	0	0	0	0
⑭	仙北組合総合病院	大仙市	2	3	3	0	8
⑮	市立横手病院	横手市	1	2	0	0	3
⑯	平鹿総合病院	横手市	2	2	2	0	6
⑰	雄勝中央病院	湯沢市	2	2	1	0	5
	計		33	36	28	5	102
⑱	秋田大学医学部附属病院	秋田市	7	4	8	2	21
総	計		40	40	36	7	123

※本年9月より0人

(表2) 卒業年度別初期研修医数の推移

学校年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
卒業年月	H14年 3月	H15年 3月	H16年 3月	H17年 3月	H18年 3月
医学部卒業者数	121	102	101	82	108
うち県内に 残った人数	62	44	37	26	41

(図2) 地域拠点病院と大学病院との総合的教育連携



取組の概要

秋田県における小児科,産婦人科,麻酔科,救急の4診療科における医師不足解決のために,地域の協力病院と大学病院が総合的に連携することを推進します。それを基盤として本取組では,4診療科に関する充実した卒前教育と卒後臨床研修を実施します。

- 1) 1年次の早期臨床体験として地域医療の実態調査を行い,早期から理解と解決の意欲を喚起する
- 2) 大学教員と協力病院の医師により優れた講義・実習を行い,これら4診療科の医療と学問への関心を育てる
- 3) 6年次生を協力病院に派遣してより充実した臨床実習を行い,特に4診療科の医療への関心を喚起する
- 4) 協力病院と大学病院とが連携して充実した初期臨床研修を行い,4診療科を専門として選択する機会を増やす(図3,4)
- 5) 大学病院で4診療科の後期臨床研修を可能にし,また女性医師らの支援や再教育の機会を設ける(図5)



図3.外傷患者の救命のための講習会



図4.救急医学実習

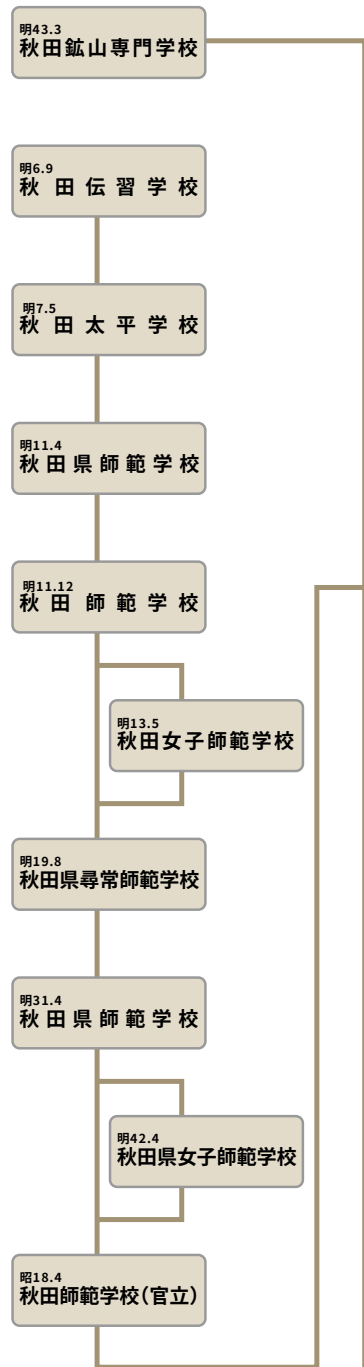


図5.女性医師支援フォーラム

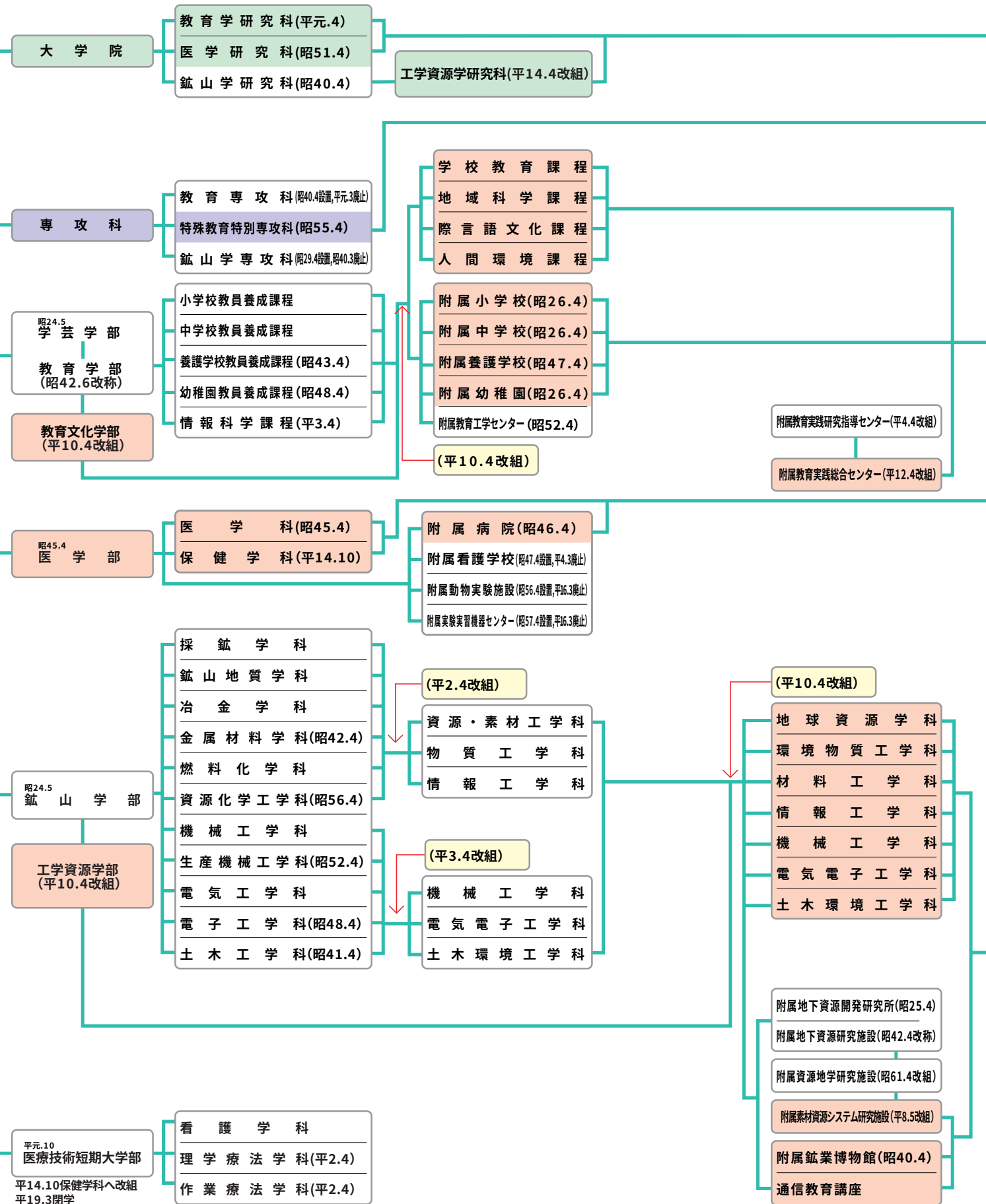
沿革

Historical Sketch

- 大学院
- 専攻科
- 学部
- その他・施設等

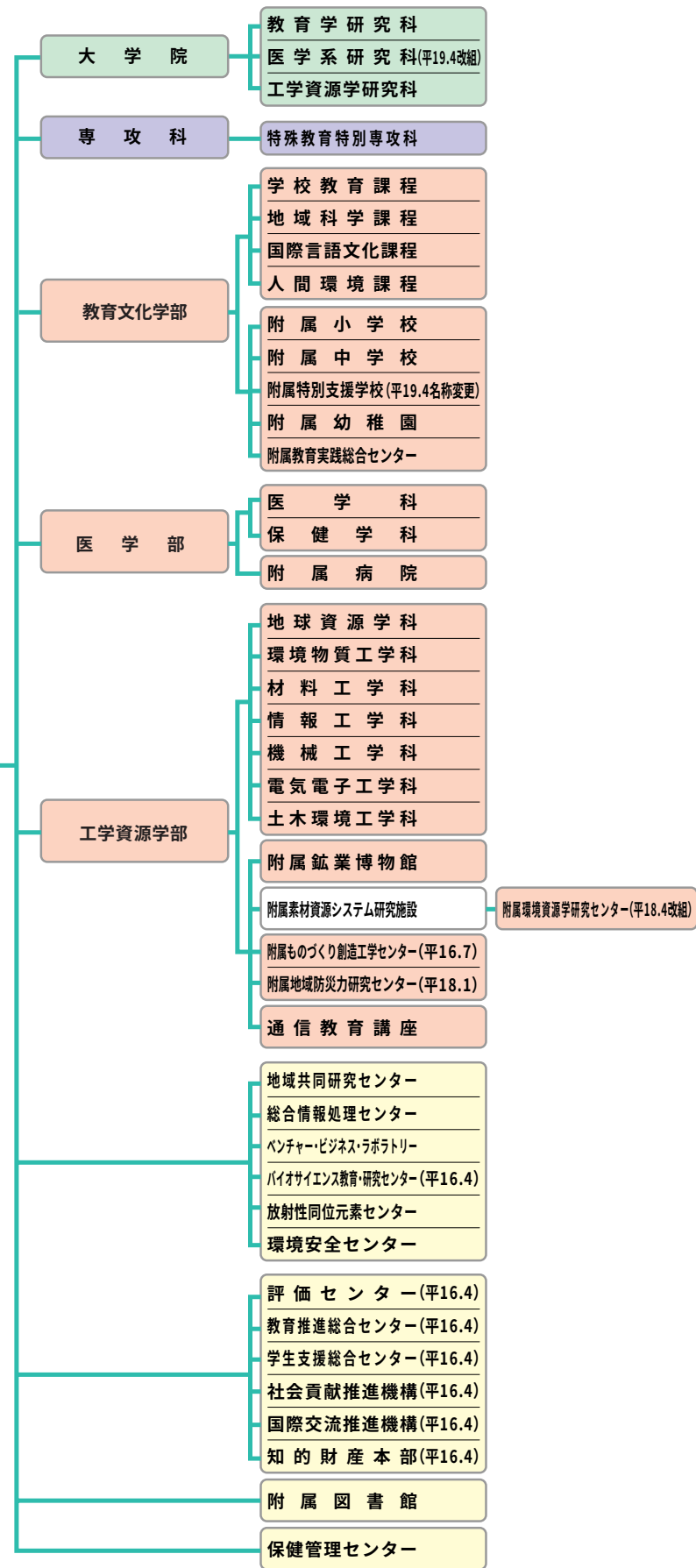


秋田大学



秋田大学

国立大学法人法
(平成15年7月16
日法律112号)に
基づき設置され
た国立大学



運営組織

Management Organization

監事(2人) Auditors
(うち,非常勤1人)

経営協議会 (10人)

Management Committee

(経営に関する重要事項を審議)

- ◇学長
- ◇理事(財務担当)(非常勤)
- ◇理事(総務担当)
- ◇医学部附属病院長
- ◇学長指名職員
(学長特別補佐(企画調整・評価担当))
- ◇学外委員(5人)

役員会 (6人)

Board of Directors

(経営,教学の両面にわたり,特定の重要事項について,学長の意思決定に先立ち議決を行う。)

- ◇学長
- ◇理事(教育担当)
- ◇理事(学術研究担当)
- ◇理事(社会貢献・国際交流担当)
- ◇理事(財務担当)(非常勤)
- ◇理事(総務担当)

教育研究評議会 (19人)

Education and Research Council

(教育研究に関する重要事項を審議)

- ◇学長
- ◇理事(教育担当)
- ◇理事(学術研究担当)
- ◇理事(社会貢献・国際交流担当)
- ◇学長特別補佐(企画調整・評価担当)
- ◇教育文化学部長
- ◇医学部長
- ◇工学資源学部長
- ◇附属図書館長
- ◇医学部附属病院長
- ◇地域共同研究センター長
- ◇総合情報処理センター長
- ◇教育推進主管
- ◇各学部長推薦の当該学部教授(各2人)

学長選考会議 (15人)

President Nomination Committee

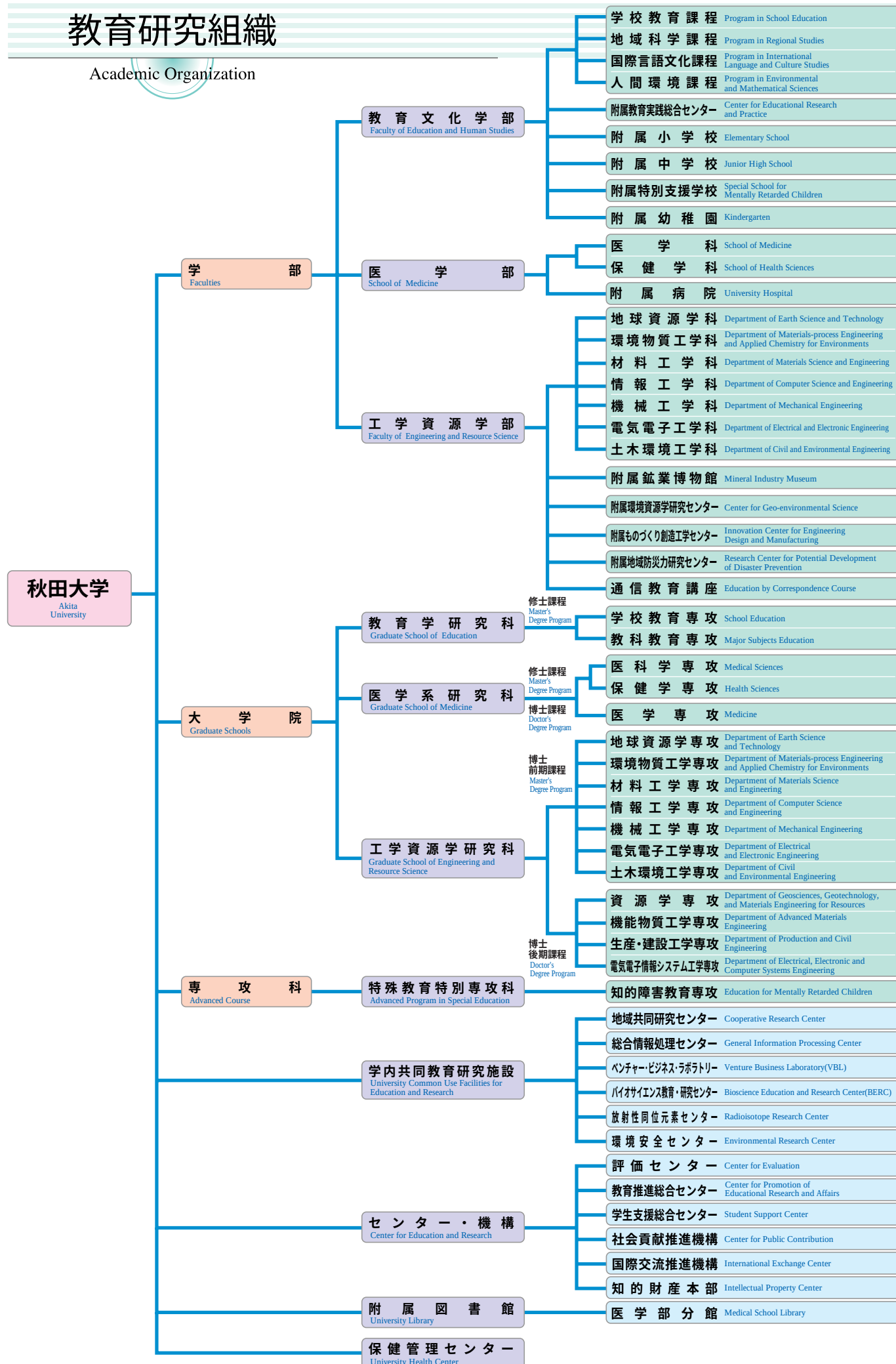
- | | |
|------------------|--|
| ◇理事(教育担当) | ◇学長特別補佐(企画調整・評価担当) |
| ◇理事(学術研究担当) | ◇教育文化学部長 |
| ◇理事(社会貢献・国際交流担当) | ◇医学部長 |
| ◇理事(財務担当)(非常勤) | ◇工学資源学部長 |
| ◇理事(総務担当) | ◇附属図書館長 |
| | ◇経営協議会委員のうち国立大学法人秋田大学の
役員又は職員以外の者(5人) |

部局長等連絡調整会議 (13人)

- | | |
|------------------|--------------------|
| ◇学長 | ◇学長特別補佐(企画調整・評価担当) |
| ◇理事(教育担当) | ◇教育文化学部長 |
| ◇理事(学術研究担当) | ◇医学部長 |
| ◇理事(社会貢献・国際交流担当) | ◇工学資源学部長 |
| ◇理事(財務担当)(非常勤) | ◇附属図書館長 |
| ◇理事(総務担当) | ◇医学部附属病院長 |
| | ◇経営協議会の学外委員(1人) |

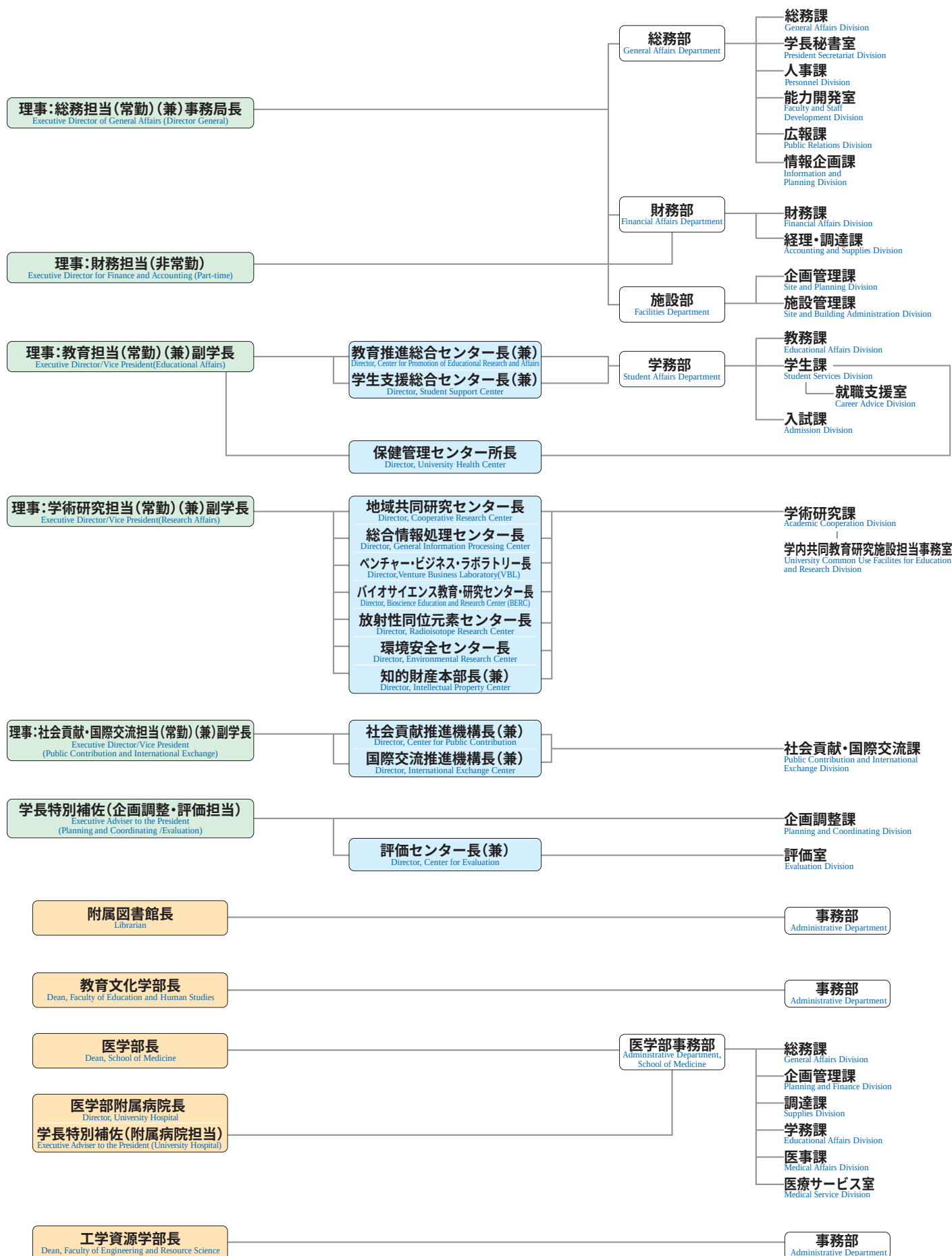
教育研究組織

Academic Organization



事務組織

Administrative Organization



役職員

Administrative Staff

平成19年4月1日現在

役員会

学長	三 浦 亮
理事(教育担当)・副学長	池 村 好 道
理事(学術研究担当)・副学長	石 尾 俊 二
理事(社会貢献・国際交流担当)・副学長	妹 尾 春 樹
理事(財務担当)(非常勤)	白 滝 一 紀
理事(総務担当)・事務局長	山 田 久 仁 夫
監事	白 田 雅 郎
監事(非常勤)	小 林 章

経営協議会

学長	三 浦 亮
理事(財務担当)(非常勤)	白 滝 一 紀
理事(総務担当)	山 田 久 仁 夫
医学部附属病院長	溝 井 和 夫
学長特別補佐(企画調整・評価担当)	井 上 浩
お茶の水女子大学名誉教授	伊 藤 厚 子
工学資源学部北光会会長	菊 地 芳 朗
秋田魁新報社代表取締役社長	佐 藤 暢 男
大学入試センター理事長	吉 本 高 志
秋田商工会議所会頭	渡 邊 靖 彦

教育研究評議会

学長	三 浦 亮
理事(教育担当)・副学長	池 村 好 道
理事(学術研究担当)・副学長	石 尾 俊 二
理事(社会貢献・国際交流担当)・副学長	妹 尾 春 樹
学長特別補佐(企画調整・評価担当)	井 上 浩
教育文化学部長	熊 田 亮 介
医学部長	本 橋 豊
工学資源学部長	吉 村 昇
附属図書館長	渡 會 二 郎
医学部附属病院長	溝 井 和 夫
地域共同研究センター長	濱 田 文 男
総合情報処理センター長	西 田 真
教育推進主管	河 谷 正 仁
教育文化学部教授	立 花 希 一
教育文化学部教授	對 馬 達 雄
医学部教授	榎 本 克 彦
医学部教授	浅 沼 義 博
工学資源学部教授	小 沢 泉 太 郎
工学資源学部教授	川 上 洵

事務局等

事務局長	山 田 久 仁 夫
総務部長	加 藤 莊 一
総務課長	郷 路 健 二
学長秘書室長	郷 路 健 二
人事課長	佐 藤 貢
能力開発室長	佐 藤 貢
広報課長	米 塚 清
情報企画課長	加 藤 秀 憲
財務部長	河 西 愛 次
財務課長	大 島 英 夫
経理・調達課長	高 橋 康 一
施設部長	菊 池 健
企画管理課長	川 村 英 夫
施設管理課長	太 田 正 孝
学務部長	薄 田 堯 明
教務課長	三 國 谷 時 雄
学生課長	阿 部 敏 樹
入試課長	棚 井 信 良
企画調整課長	小 松 一 幸
評価室長	小 松 一 幸
学術研究課長	保 坂 勇 悦
社会貢献・国際交流課長	永 井 美 喜 子

センター・機構等

地域共同研究センター長	濱 田 文 男
総合情報処理センター長	西 田 真
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	菅 原 勝 康
バイオサイエンス教育・研究センター長	鈴 木 聡
放射性同位元素センター長	泰 松 齊
環境安全センター長	大 谷 規 隆
評価センター長	井 上 浩
教育推進総合センター長	池 村 好 道
学生支援総合センター長	池 村 好 道
社会貢献推進機構長	妹 尾 春 樹
国際交流推進機構長	妹 尾 春 樹
知的財産本部長	石 尾 俊 二
保健管理センター所長	苗 村 育 郎
教育推進主管	河 谷 正 仁

附属図書館

館長	渡 會 二 郎
医学部分館長	杉 山 俊 博
事務長	伊 藤 重 範

教育文化学部

学部長	熊 田 亮 介
事務長	三 浦 勲
附属小学校長	佐 藤 稔
附属中学校長	笠 原 幸 生
附属特別支援学校長	石 黒 純 一
附属幼稚園長	四 反 田 素 幸
附属教育実践総合センター長	對 馬 達 雄

医学部

学部長	本 橋 豊
附属病院長	溝 井 和 夫
事務部長	椎 名 幸 男
総務課長事務取扱	椎 名 幸 男
企画管理課長	山 崎 賢 司
調達課長	間 杉 敏 行
学務課長	永 井 譲
医事課長	佐 藤 悟
医療サービス室長	佐 藤 悟

工学資源学部

学部長	吉 村 昇
事務長	笹 本 達 見
附属鉱業博物館長	佐 藤 時 幸
附属環境資源学研究センター長	中 田 真 一
附属ものづくり創造工学センター長	土 岐 仁
附属地域防災力研究センター長	松 富 英 夫

大学院

教育学研究科長	熊 田 亮 介
医学系研究科長	本 橋 豊
工学資源学研究科長	吉 村 昇

教育文化学部・教育学研究科・特殊教育特別専攻科

Faculty of Education and Human Studies / Graduate School of Education / Advanced Program in Special Education

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成と地域社会、国際社会、環境関連分野で活躍できる人材の養成を目的とし、4つの課程で構成されています。

学校教育課程：次世代を育てる教員の養成

- 1.幅広い社会的視野にたって、子どもの心を理解する柔軟性のある教員
- 2.今日の教育的病理を克服し得る指導力・問題解決能力を備えた教員
- 3.情報化社会に対応して、情報処理及び活用能力を備えた教員
- 4.「ふるさと教育」など地域的課題を理解し実践できる教員



地域科学課程：地域社会に貢献する人材の養成

- 1.高齢化、過疎化、国際化、情報化の現状と課題をとらえ、地域社会の活性化に向けて、企業や行政など多様な分野で活動することができる人材
- 2.住民の豊かな生活を保障する地域社会の構築のために、生活者の視点から、高齢化、少子化、過疎化の現状と課題をとらえ、地域活動計画を立案し実践できる人材
- 3.地域文化を発見・再評価し、新たな文化資源・環境のあり方やその活用方法を提示できる人材

国際言語文化課程：国際交流に貢献する人材の養成

- 1.日本・アジア・欧米各国の文化の交流と相互理解の促進をはかることによって、地域における国際交流に貢献できる人材
- 2.環日本海地域の歴史文化と国際関係の理解にたって、当該地域の地域間協力・交流システムづくりに貢献できる人材の養成
- 3.海外諸国において、日本文化の深い理解とコミュニケーション能力を基礎として異文化間交流に携わる人材
- 4.英、独、仏、露、中、朝鮮語、さらには古典ギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語の習得により、外国語を活かせる分野で活躍できる人材

人間環境課程：人間生存環境を構築する人材の養成

- 1.人間の生活と自然資源・景観とのかかわりを総合的に理解したうえで環境アセスメントを行い、望ましいアメニティを提案することができる人材
- 2.人間の生活を支える生物環境資源の調査・分析を行い、それらの資源の持続的利用・管理のための方策を提示できる人材
- 3.自然と地域の相互関係を理解したうえで、自然生態系の保全のあり方を提示しうる人材
- 4.人間の生存環境を数理的・工学的に理解・処理することを通して、自然環境の急速な変化に対応できる生活防衛システムづくりや情報化社会における人工環境のシステム構築に貢献できる人材

課 程	選 修	講 座
学 校 教 育	教科教育実践	教科教育学 音楽教育 美術教育 スポーツ・健康教育
	障害児教育	障害児教育
	発達科学	発達教育 教育心理学
地 域 科 学	政策科学	政策科学
	生活者科学	生活者科学
	文化環境	文化環境
国 際 言 語 文 化	日本・アジア文化	日本・アジア文化
	欧米文化	欧米文化
	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション
人 間 環 境	自然環境	自然環境
	環境応用	環境情報 基礎数理

教育学研究科

大学院教育学研究科は、平成元年に5専修で創設し、平成9年にすべての教科に対応する11専修を整えました。さらに平成14年に時代の要請を受けて心理教育実践専修を発足しました。

本研究科は、21世紀の初等中等教育を担う優れた質の高い教員の養成を目的としており、現職教員の受け入れのほか、海外からの入学も積極的に進めています。

また、修了者は年々、学校現場、県教委等で指導的な役割を果たしています。



課 程	専 攻	専 修
修 士 課 程	学校教育専攻	学 校 教 育 専 修
		心 理 教 育 実 践 専 修
	教科教育専攻	国 語 教 育 専 修
		社 会 科 教 育 専 修
		数 学 教 育 専 修
		理 科 教 育 専 修
		音 楽 教 育 専 修
		美 術 教 育 専 修
		保 健 体 育 専 修
		技 術 教 育 専 修
		家 政 教 育 専 修
		英 語 教 育 専 修

特殊教育特別専攻科

特殊教育特別専攻科は、特別支援教育の充実を図るために、主に知的障害児、肢体不自由児、病弱児を教育する特別支援学校の教員を養成する目的で設置されています。現在は、一般社会人を含む多くの人を対象に、障害児教育の専門家の育成を行っています。

医学部・医学系研究科

School of Medicine / Graduate School of Medicine

医学部

医 学 科

医学科では、適切な科学・医学知識や、医療技術を習得した上で、豊かな文化的教養を身に付け、臨床研修や基礎研究を始めるために必要な意欲と能力を持つ人材を育成するとともに、高度先進医学・医療を推進し、地域社会における医療・福祉の充実に貢献することを目標としています。

平成15年4月に講座の再編を行い、4つの基礎医学講座と6つの臨床医学講座に移行しました。バイオサイエンス教育・研究センターと有機的に連携しながら、教育及び研究の充実・発展を図っています。

基礎医学講座	
大 講 座	分 野
構造機能医学	形態解析学
	細胞生物学
	器官構造学
	分子医科学
	分子機能学
	代謝機能学
機能制御医学	細胞制御学
	器官制御学
	統合制御学
	情報制御学
	実験治療学
	医用工学
病理病態医学	分子病態学
	器官病態学
	腫瘍病態学
	感染制御学
	生体防御学
	病原微生物学
社会環境医学	法医学
	環境保健学
	健康増進医学
	医科学情報学
	国際交流

臨床医学講座	
大 講 座	分 野
内科学	消化器内科学
	神経内科学
	循環器内科学
	呼吸器内科学
	血液内科学
	腎臓内科学
	内分泌・代謝・老年医学
外科学	消化器外科学
	呼吸器外科学
	心臓血管外科学
	小児外科学
神経運動器学	脳神経外科学
	精神科学
感覚器学	整形外科学
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	眼科学
生殖発達医学	皮膚科学・形成外科学
	小児科学
	産婦人科学
統合医学	泌尿器科学
	麻酔科学・蘇生学
	救急・集中治療医学
	放射線医学
	臨床検査医学

保健学科

保健学科は平成14年10月に設置された新しい学科で、平成15年4月から学生を受け入れております。3専攻(8講座)を有し、豊かな感性と高い教養、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身に付け、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成します。また、教育の礎となり、健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し、社会に貢献します。

専攻	講座
看護学 (4講座)	基礎看護学
	臨床看護学
	母子看護学
	地域・老年看護学
理学療法学 (2講座)	基礎理学療法学
	臨床理学療法学
作業療法学 (2講座)	基礎作業療法学
	臨床作業療法学



医学系研究科

大学院医学系研究科は、最先端の医学・医療を学ぶ向上心と意欲を修得させるとともに、国際的な視野に立ち、専攻分野あるいはその隣接領域について自立した研究活動を行い、高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する研究・教育者あるいは高度職業人を養成しています。

課程	専攻
修士課程	医科学専攻
	保健学専攻
博士課程	医学専攻



工学資源学部・工学資源学研究科

Faculty of Engineering and Resource Science / Graduate School of Engineering and Resource Science

工学資源学部

工学資源学部は、地球環境と調和のとれた資源学と、豊かな人間性を支える工学の発展に寄与できる技術者及び研究者の養成を行います。

資源系では地球規模となった資源・環境・エネルギー問題の解決のための教育・研究の発展を図り国際的に活躍できる資源技術者の養成を行います。一方、工学系においては、先端分野・学際分野への展開を継続しながら、地域の課題である高齢化への対応や新たな産業の創出などへ寄与できる教育・研究分野の充実を図り、地域の産業を担う人材の養成を行います。

教育と研究の基本的な視点

1. グローバリゼーション時代の資源学への対応
2. 社会の要請に応える人材の養成
3. 地域社会への積極的な貢献

学部の特色

1. 幅広い入学者の受け入れ
2. 独創性、起業家精神の育成
3. 先端的研究の進展
4. 国際的な資源技術者の養成
5. 地域社会の問題への取り組み



具体的な教育カリキュラムの編成

1. 応用力や創造性を重視した専門教育(創造工房実習, フィールド実習)
2. 社会における科学技術の役割の実習(環境と安全, 技術者倫理, 技術史, 鉱業史)
3. 国際性を養う専門教育(海外実習, テクニカルコミュニケーション, 外国文献講読)
4. プロポーザル能力の養成(研究プロポーザル)
5. 入学から卒業までの継続性を重視した4年一貫教育(初年次ゼミ, 高学年特別講義)
6. 情報処理能力の養成(情報処理の技法)
7. 職業意識を高める実践教育(インターンシップ)
8. 大学, 学部, 学科を越えた履修範囲(自由科目, 他大学との単位互換)

学 科	講 座			
地 球 資 源 学 科	応用地球科学	地球システム工学		
環 境 物 質 工 学 科	素材プロセス工学	環境・素材設計工学	分子機能化学	化学システム学
材 料 工 学 科	材料物性学	知能材料学	エネルギー材料学	材料開発工学
情 報 工 学 科	人間情報工学	産業情報工学	数理情報工学	
機 械 工 学 科	機械物理工学	機械ダイナミクス	システム設計	ロボティクス・福祉工学
電 気 電 子 工 学 科	電気エネルギー工学	光・電子デバイス工学	知能情報通信工学	制御システム工学
土 木 環 境 工 学 科	福祉環境工学	環境構造工学	地域環境工学	

工学資源学研究科

工学資源学研究科は、工学資源学部の設立理念に立ち、新しい研究領域を創出するため、学部の学科に対応する前期課程は7専攻とし、新たな理念に基づいた後期課程4専攻としました。

○前期課程各専攻

国際的に活躍する資源専門技術者、環境技術や先端化学技術に貢献する専門技術者、先端機能材料の開発を目指す専門技術者、マルチメディア社会に即応できる専門技術者、人と環境にやさしい機械システムの開発に貢献できる専門技術者、創造的エレクトロニクス専門技術者、ノーマライゼーション理念で社会基盤設計を行う専門技術者の養成

平成19年4月には「学び直し」の機会を創出し、再チャレンジを目指す若者、女性、高齢者等の有職者、退職者等の幅広い社会人を支援するため、博士前期課程に「再チャレンジ支援プログラム」として、「環境リスクコミュニケーション養成コース」と「テクノマイスター養成コース」を開設しました

課 程	専 攻	講 座
博士前期課程	地 球 資 源 学	応用地球科学 地球システム工学
	環 境 物 質 工 学	素材プロセス工学 分子機能化学 環境・素材設計工学 化学システム学
	材 料 工 学	材料物性学 エネルギー材料学 知能材料学 材料開発工学
	情 報 工 学	人間情報工学 数理情報工学 産業情報工学
	機 械 工 学	機械物理工学 システム設計 機械ダイナミクス ロボティクス・福祉工学
	電 気 電 子 工 学	電気エネルギー工学 知能情報通信工学 光・電子デバイス工学 制御システム工学
	土 木 環 境 工 学	福祉環境工学 地域環境工学 環境構造工学

○後期課程各専攻

地球の資源・物質環境を考えた総合的な資源学の体系化、物質に関する広範囲の知識を総合した開発、組織的なものづくりと生活基盤整備、電気電子技術を基盤とした情報技術の開発

課 程	専 攻	講 座
博士後期課程	資 源 学	資源地球科学 環境資源サイクル工学 資源環境学
	機 能 物 質 工 学	機能材料工学 環境応用化学
	生 産 ・ 建 設 工 学	生産システム工学 福祉システム工学 社会基盤工学
	電 気 電 子 情 報 シ ス テ ム 工 学	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学

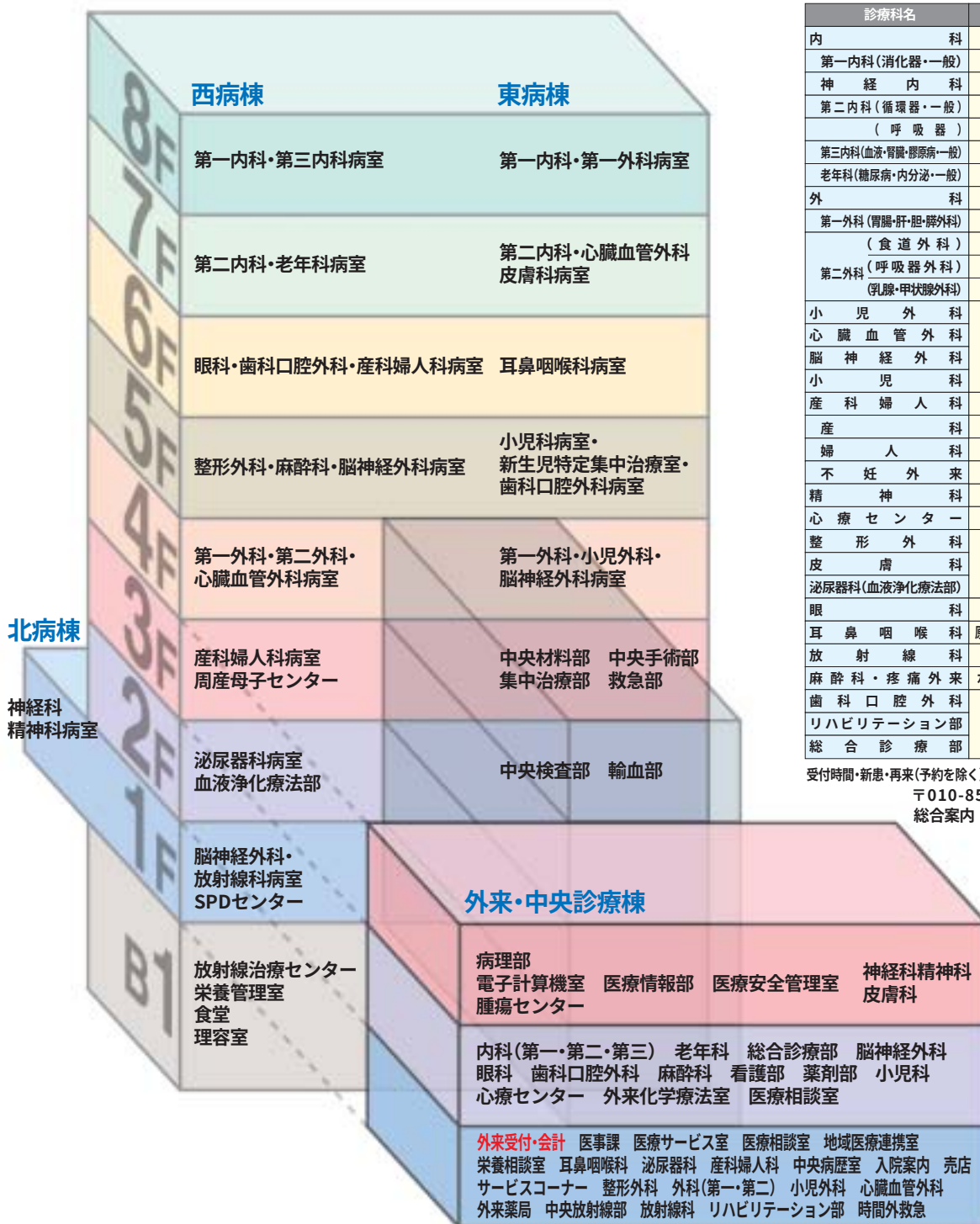
医学部附属医院

University Hospital

医学部附属医院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することを通して、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心として役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

病院案内図



「各診療科の受付曜日・時間等」のご案内

平成19年4月1日現在

診療科名	新 患	再 来
内 科		
第一内科(消化器・一般)	火・金	月～金
神 経 内 科	月・火・木・金	月・火・木・金
第二内科(循環器・一般)	月～金	月～金
(呼 吸 器)	水・木	
第三内科(血液・腎臓・膠原病・一般)	月・木	
老年科(糖尿病・内分泌・一般)	月～金	
外 科		
第一外科(胃腸・肝・胆・脾外科)	月～金	月～金
(食 道 外 科)	火・木	木
第二外科(呼吸器外科)	火・木	火・木
(乳腺・甲状腺外科)	月・水	月・水・木
小 児 外 科	月～金	月～金
心 臓 血 管 外 科		
脳 神 経 外 科		
小 児 科		
産 科 婦 人 科		
産 科	月～金	火～金
婦 人 科	月～木	月・火・木・金
不 妊 外 来	月・火・水・金	月・火・水・金
精 神 科	月～金	月～金
心 療 セ ン タ ー	月・火・木・金	月・火・木・金
整 形 外 科	月～金	月～金
皮 膚 科		
泌尿器科(血液浄化療法部)		
眼 科	月～金	月・水(当分の間)
耳 鼻 咽 喉 科	原則として火・木・金	月～金
放 射 線 科	月～金	
麻 酔 科・疼 痛 外 来	水・木(当分の間)	水・木(当分の間)
歯 科 口 腔 外 科	月～金	月～金
リハビリテーション部		
総 合 診 療 部		

受付時間・新患・再来(予約を除く)とも8:30～10:30(全診療科共通)

〒010-8543 秋田市本道一丁目1-1

総合案内 TEL:018-834-1111(代)

正面玄関

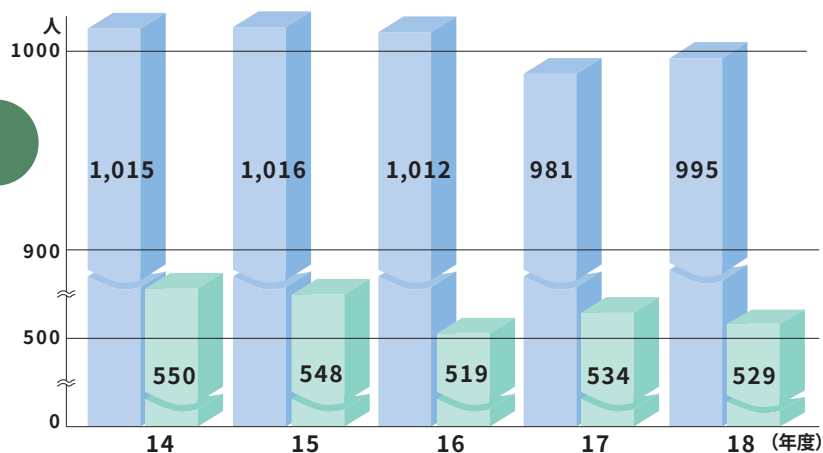
診療科	平成18年度延患者数	
	入院	外来
第一内科	18,999 人	28,487 人
第二内科	16,531	20,720
第三内科	13,579	12,421
老年科	4,161	15,242
第一外科	12,787	3,861
第二外科	9,056	8,333
心臓血管外科	6,654	1,657
脳神経外科	8,833	6,728
小児外科	2,520	1,656
小児科	11,128	10,127
産科婦人科	17,040	19,261
神経科精神科	10,704	22,862
整形外科	11,982	19,723
皮膚科	4,725	15,337
泌尿器科	12,986	12,688
眼科	8,063	12,130
耳鼻咽喉科	12,588	15,400
放射線科	6,907	2,278
麻酔科	450	2,259
歯科口腔外科	3,303	12,539
合計	192,996	243,709

中央診療施設等
中央検査部
中央手術部
中央放射線部
中央材料部
集中治療部
救急部
輸血部
リハビリテーション部
医療情報部
血液浄化療法部
中央病歴部
周産母子センター
病理部
総合診療部
治験管理センター
医療機器管理センター
移植検査センター
卒後臨床研修センター
光学医療診療部
遺伝子医療部
腫瘍センター

病床数：610

年度別1日平均患者数

■ 外来患者数
■ 入院患者数



附属図書館

University Library

開館時間

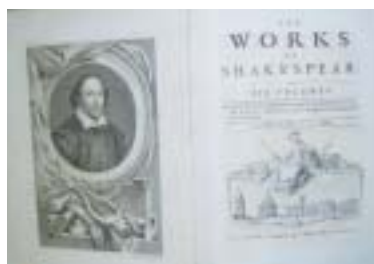
区 分	本館・医学部分館	春季・夏季・冬季 休業期間中
平 日	8:30～21:00	8:30～17:00
土・日・祝	10:00～17:00	閉 館



本館ブラウジングコーナー



本館(正面玄関)



特別コレクション
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています。

○附属図書館は本館(手形地区)と医学部分館(本道地区)があり,図書・雑誌・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と,その蓄積された情報の提供を行っています。

○蔵書は本館が約396千冊,医学部分館が約101千冊となっています。

○附属図書館では次のようなサービスを行い,学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。

- | | |
|------------|-------------|
| 1.閲覧サービス | 5.各種文献 |
| 2.貸出サービス | データベースサービス |
| 3.文献複写サービス | 6.電子ジャーナル |
| 4.蔵書検索サービス | 7.図書館ホームページ |

○地域に開かれた図書館として学外の方も気軽に利用できます。館内閲覧や館外貸出(利用者カードを発行します)もできます。また,地域においてボランティア活動を希望される方を対象に「図書館ボランティア」を募集しています。現在,4名の方々が,本館・医学部分館において図書館ボランティアとして,活躍されています。

●詳細についてのお問い合わせは

〈本館:利用サービス係〉

電話 018-889-2279

E-mail: riyos@lib.akita-u.ac.jp

本館HP: <http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

〈医学部分館:図書係〉

電話 018-884-6052

E-mail: ibun@lib.akita-u.ac.jp

分館HP: <http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



本館1階閲覧室



医学部分館情報検索スペース

教育文化学部附属学校園

Affiliated School

平成19年5月1日現在

平成19年5月1日現在

区 分		総 定 員	学 級 数	現 員						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附 属 小 学 校		720	18	104	106	103	103	107	113	636
附 属 中 学 校		480	12	152	153	145				450
附属特別支援学校	小学部	18	3	4		5		6		15
	中学部	18	3	6	6	5				17
	高等部	24	3	11	9	8				28
附属幼稚園	2年保育	100	5			4歳児	35	5歳児	29	64
	3年保育	60		3歳児		20	4歳児	19	5歳児	18



附属小学校



附属中学校



附属特別支援学校



附属幼稚園

学部附属教育研究施設

Facilities for Education and Research

学 部	施 設 名	施 設 目 的	研 究 部 門 等
教育文化学部	教育実践総合センター	学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究	学習環境研究部門 教育臨床研究部門 臨床心理相談室
工学資源学部	鉱業博物館	鉱業に関する研究調査 鉱業関係の博物館資料の収集保管及び展示	標本資料／約16,500点 模型／約200点
	環境資源学研究センター	循環型社会における環境資源学の創成・発展及び新素材の機能開発並びにその地球環境の関わりを総合的に研究	地球環境研究分野 資源環境型地域社会形成研究分野 環境調和型材料プロセス研究分野 生物・工学融合研究分野
	ものづくり創造工学センター	ものづくり教育の推進と創造型エンジニアの育成 地域社会への貢献	創造工学教育部門 教育・研究支援部門 地域連携・広報部門 分析・評価部門
	地域防災力研究センター	自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する	地震災害分野 津波災害分野 河川災害分野 斜面災害分野 火山災害分野 情報・計画分野



教育実践総合センター



環境資源学研究センター



鉱業博物館



ものづくり創造工学センター



地域防災力研究センター

鉱業博物館

Mineral Industry Museum



- 開館時間: 9時～16時
- 休館日: 毎週月曜日(但し月曜日が祝日の場合は翌日)
: 年末年始(12月26日～翌年1月5日)

- 入館料:

個人	大人250円
団体 (30名以上)	大人190円 高校生以下無料

●平成19年度鉱業博物館行事

【企画展】

「津波の正体にせまる ―津波研究の最前線―」
平成19年7月28日(土)～9月2日(日)

【ジュニアサイエンススクール】

貝化石の採集と整理
(平成19年8月2日(木)～8月3日(金))
対象: 小学5年～6年生

【子供科学教室】

「テーマ未定」
(平成20年1月上旬予定) 対象: 小学校高学年～中学生



▲エントランスロビー



▲1階展示室 方解石(アメリカ, テネシー州産)



▲館内の様子: サイエンスボランティアによる案内



▲平成18年度ジュニアサイエンススクール 植物化石採集と整理

就職支援活動

Career Development

1. 学生支援総合センターでの取り組み

様々な側面から学生生活への支援を行っています。その中の就職活動支援部門では、学生が卒業後、自分の志望を達成できるように支援を行っています。

具体的には、以下のような支援事業を実施しています。

●学生に早い段階で、しっかりとした職業観を身に付けさせるために、1年次の初年次ゼミの時間に「職業観について考えるためのプログラム」を設け、また1～2年次を対象に「キャリア形成入門」を開設しています。

●様々なセミナー、講演会、企業説明会を開催し、それらに参加することで学生は、自分の能力を発揮できる分野、求められている人材、評価されるための手段等、自身で判断し責任ある行動をとれるよう支援を行っています。

●公務員等を志望する学生のために、実践セミナー等を開催しています。

2. 各学部の就職支援体制

教育文化学部：就職情報室を設置し、学生が活用できるよう、就職に関するデータを収集整理しています。また、試験対策、エントリーシートや志望動機の手書き方、面接を受ける際の注意点等について学部の就職委員や就職情報室のスタッフが常時相談できる体制を取っています。

工学資源学部：(株)リクルートを経て現在田沢湖スキー場代表取締役を務めている若杉清一氏をアドバイザーとして迎え、就職活動アドバイザー室を開設し、学生が就職に関する一切の事柄に関して相談できる体制を整備しています。

医学部医学科：平成16年から臨床研修必修化制度が始まり、医師免許取得後2年間は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目指して、各科のスーパーローテーション研修が義務付けられました。本学では必修化が始まる2年前から附属病院内に卒後臨床研修センターを設置して具体的な準備を進めてきました。同センターでは、研修プログラムの作成やマッチングに関わる事務手続きの一切を行っています。研修に関する説明会は年数回行います。



センター及び機構

Center for Education and Research

評価センター

目的

1. 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援
2. 評価とそのシステムについての研究・開発

体制及び業務

- ◆ 秋田大学の自己点検・評価活動の支援
- ◆ 秋田大学の中期目標・中期計画の実施及び評価についての対応
- ◆ 外部評価及び第三者評価に対応した
学内調整や取りまとめ、報告書の作成
- ◆ 学内の教育・研究活動、自己点検・評価活動の成果や
経緯を示す資料の収集・整理・蓄積、情報の公開
- ◆ 「大学評価」についての方法やシステムの開発
- ◆ 評価活動に関わる広報活動
- ◆ 評価活動に関わる研究会・ワークショップの開催
- ◆ 評価活動の結果を各部局に還元し、各部局と連携をとりながら、
教育・研究、管理運営の改善に向けた支援・研究活動を実施

各学部等評価関連委員会

点検・評価結果
の報告

支援

評価センター

点検・評価結果
の報告

評価

教育研究評議会

- ◆ 国立大学法人評価委員会
- ◆ 第三者認証評価機関
- ◆ その他外部評価関連組織

教育推進総合センター

目的

1. 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進
2. 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発・評価による改善・充実
3. 入学者選抜に関する調査・研究による入学試験の改善

3つの部門と業務

- ◆ 教養基礎教育を中心とする
教育内容・教育方法・教育環境に関する
調査・研究・開発・評価
- ◆ 教育活動に関する
ファカルティ・ディベロップメント(FD)

教育開発部門

教育活動部門

入学者選抜部門

- ◆ 教養基礎教育を中心とする
大学教育の実施・運営
カリキュラムの企画・立案
- ◆ 履修上の教育支援

- ◆ 入学者選抜に関する
広報及び情報開示
調査・研究
- ◆ 入学試験の改善

学生支援総合センター

目的

1. 種々の生活相談及び授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援
2. 大学祭等の課外活動の支援及び課外活動施設の整備・充実の推進
3. 就職ガイダンスの実施及び就職情報の提供等による就職活動支援

3つの部門と業務

- ◆ 学生相談及びメンタルヘルス相談
- ◆ 授業料等の免除及び猶予
- ◆ 学園だより等の編集
- ◆ 奨学金
- ◆ 学生寮
- ◆ 学生表彰

学生生活支援部門

課外活動支援部門

就職活動支援部門

- ◆ 学生が行う団体活動の支援
- ◆ 学生の研修を企画・実施
- ◆ 学生が計画した行事を支援
- ◆ 課外活動施設の管理・運営
- ◆ 大会会館及び乳頭ロッジの管理・運営

- ◆ 就職ガイダンスの実施
- ◆ 就職情報の分析及び提供
- ◆ 就職相談
- ◆ 就職先の開拓

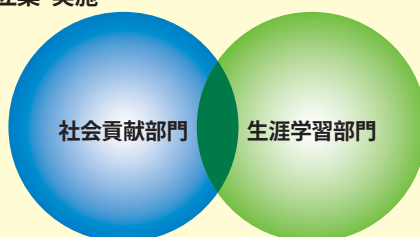
社会貢献推進機構

目的

1. 人的・物的資源や総合力を活用した社会・地域への貢献
2. 教育・研究の成果を地域社会に還元・提供するための、生涯学習社会に対応した諸事業の継続実施

2つの部門と業務

社会・地域に貢献する事業の企画・立案・実施



生涯学習社会に対応した諸事業の企画・立案・実施

国際交流推進機構

目的

1. 国際交流に関する企画・広報活動
2. 国際学術交流の推進
3. 国際教育交流の推進

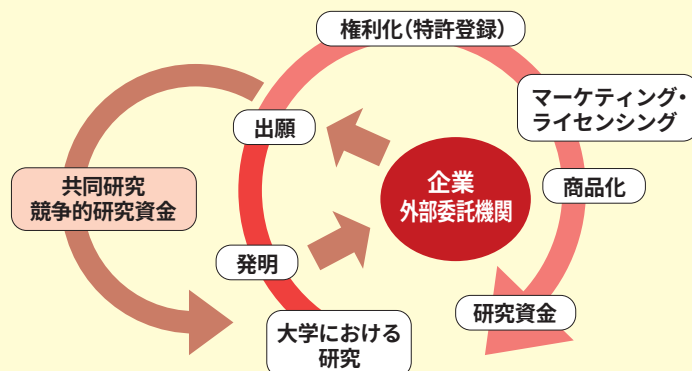
3つの部門と業務



知的財産本部

目的

知的創造サイクルの構築による学術研究・教育の発展と社会貢献



学内共同教育研究施設等

University Common Use Facilities for Education and Research

地域共同研究センター



目的等

「開かれた大学づくり」の一環として、知的資源を地域社会の発展のために有効に活用することを目的として、大学と民間企業や公的研究機関との共同研究の推進、高度技術研修、科学技術相談さらに、民間より客員教授を招へいし、講演会、セミナー、フォーラムなどを介して最新の学術情報の提供と社会への提言を行うなど、各種の事業を行っております。

総合情報処理センター



目的等

約220台のネットワークブート型のシンクライアント端末、大規模計算用としての高速演算サーバおよびキャンパスネットワークシステムを運用しています。教職員、大学院生、学部生など誰でも利用ができ、教育、研究等に活用されています。高度化・多様化する情報教育の要求に応えるべく、教育、研究、各種業務ならびに地域への支援を行っています。

放射性同位元素センター



目的等

放射性同位元素は、正しく取扱えば化学的反応メカニズムなどを解明する上で極めて強力なツールとなります。本センターは、放射性同位元素を使用した研究・教育に対する支援および放射線取扱業務に関する安全管理を目的として運営されています。化学実験室、 -10°C および 4°C 低温実験室、放射能測定室、精密機器測定室、中性子照射室、RI貯蔵室などからなり、より高度な研究環境を提供しています。

環境安全センター



目的等

教育研究及び診療に伴い生じる有害物質を含んだ廃液等の処理を行い環境保全に資するため、有害廃液等を無機系廃液、有機系廃液及び有害固形廃棄物に区分し、分別収集により、これらの適正処理・処分を行っています。多種・多様な性状を有する廃液等は研究機関特有であるため、処理技術の検討・改善を行い適正処理に努めています。また、学内外において環境科学等に係る教育・実習及び共同研究を実施しています。

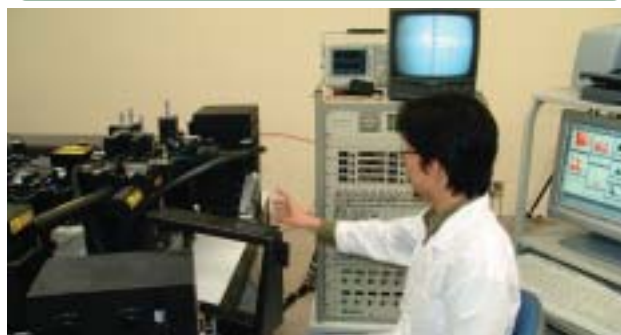
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー



目的等

希少元素は世界的に埋蔵量の少ない貴重な資源ですが、IT産業やナノテクノロジーでは必要不可欠な物質です。ラボラトリーでは、「希少元素物質のリサイクル技術の開発と高度素材設計」を目的とした教育・研究を進めています。さらには、新産業の創出も目指しています。

バイオサイエンス教育・研究センター



目的等

これまであった医学部附属動物実験施設・医学部附属実験習機器センター・医学部RIセンターの3つの共同教育研究施設を統合して、大学のみならず地域の研究施設や医療施設、企業の研究者も効率的に利用できる全学施設として平成16年度に設置されました。ライフサイエンス研究のための最新解析機器の提供、バイオ関連実験サービスの提供、実験動物の適切な管理、放射性同位元素を用いた実験環境の提供などのサービス業務を行っているほか、学内のバイオ関連研究の適正審査、福祉・医療技術の開発・応用研究、新規実験動物の作成・開発研究などの研究活動も同時に展開しています。

戸賀臨海実習所



目的等

学芸学部創立90周年並びに手形統合記念事業として、卒業生、教職員等の協力で昭和39年12月に男鹿半島戸賀湾の一角に建設された施設で、研修室や50人収容の宿泊室などを整備し、男鹿半島の自然、地質、生物、人文科学等の調査の基地として活用できるだけでなく、学生の研修及び課外活動並びに職員の研修及び福利厚生に資することを目的としています。

乳頭ロッジ



目的等

本学学生の研修・課外活動、職員の研修及び福利厚生施設として、平成8年11月に設けられた施設です。同施設は、十和田八幡平国立公園の南部、乳頭温泉郷（秘湯全国の温泉100選）の一角にあり、周辺は高山植物の宝庫といわれる秋田駒ヶ岳、深度日本一の田沢湖など、また乳頭キャンプ場、田沢湖スキー場など豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて多様な活動が可能なところです。

福利厚生施設等

Welfare Facilities, etc.

保健管理センター



健康診断

案 内

- 1) 定期学生健康診断
新入学生、卒業・修了年次学生……………4月初旬～中旬
2・3 (医学科4・5) 年次……………5月中旬
- 2) 健康相談
・内科の健康相談……………毎日 (午後)
・悩み事、心の健康相談……………毎日 (午後)
・皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科の健康相談……………毎月1回
- 3) 応急処置
- 4) 健康診断書の発行

大学会館・手形キャンパス



手形キャンパス内の
大学会館 (クレール)

案 内

- 1) 開館時間 平日 8:30～20:00
土曜日 11:30～13:30 (食堂のみ)
- 2) 食堂 (700席)
- 3) 食品・弁当コーナー
- 4) 書籍・文具コーナー
- 5) 喫茶室 (12席)
- 6) アメニティーコーナー
(自由に話し合いするための場)
- 7) 研修室 (3室)、和室 (2室)
- 8) アルバイトセンター

学生寮



手形寮

	手形寮 (女子)	本道寮 (女子)	北光寮 (工学資源学部男子)
	745m ²	1,121m ²	3,460m ²
居室形態	個室	個室	2人部屋
定員	40人	31人	108人

本道会館・本道キャンパス



案 内

- 1) 開館時間
平日 9:00～22:00
- 2) 食堂 (110席)
- 3) 売店
- 4) 研修室 (自習室) (60席)
- 5) 談話室 (30席)
- 6) 会議室
(大会議室・小会議室)
- 7) 和室

国際交流会館



案 内

- 1) 居室
単身室 (外国人留学生用 10室、外国人研究者用 5室)
夫婦室 (外国人研究者用 3室)、家族室 (外国人研究者用 2室)
- 2) 入居対象者
・本学に在学する外国人留学生
・本学において教育研究に従事する外国人研究者及びその配偶者・子女
・その他館長が適当と認めた者

留学生会館



案 内

- 1) 居室
単身室 (27室)、夫婦室 (3室)
- 2) 入居対象者
・本学に在学する外国人留学生
及びその配偶者
・その他館長が必要と認めた者

体育施設等

Sports Facilities

施設	面積(m ²)			備 考
	手 形 地 区	本 道 地 区	保 戸 野 地 区	
陸 上 競 技 場	24,637	} 20,909	—	400m 6コース メイン 8コース
野 球 場	20,378		—	
サ ッ カ ー 場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	—	サッカー ラグビー (本道地区はサッカー ラグビー アーチERY 準硬式野球)
ハンドボール場	(1,200)	—	—	陸上競技場を含む
大 体 育 館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール バレーボール バドミントン 柔道 剣道 合気道(本道地区はバレーボール バドミントン バスケットボール 卓球 サロン・フットボール)
小 体 育 館	650	—	—	体操 卓球 空手道
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道 剣道
弓 道 場	149	—	—	的場(44m ²)は含まない。
テ ニ ス コ ー ト	(5面)3,238	(5面)3,614	—	
プ ー ル (25m)	800	—	—	
運 動 場	—	—	14,923	



野球場



陸上競技場(中央 大体育館)



プール

東京サテライト

Tokyo Satellite

企業との産学官連携の推進等,教育・研究,社会貢献活動の周知・発展を図るため,首都圏における情報収集・発信,広報・広聴,連絡調整,交渉等を機動的に行う拠点として,「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

業務紹介

大学活動拠点

- 首都圏の情報収集,首都圏への本学情報発信
- 入試広報,入試説明会,各学校への情報発信,訪問活動拠点
- 就職活動,就職斡旋先企業等への情報発信,訪問活動拠点
- シンポジウム,説明会等の研究成果発表
- 公開講座等,生涯学習的な教育活動
- 大学周知等の各種イベント
- 同窓会入会,相談



▲キャンパス・イノベーションセンター外観

産学官連携

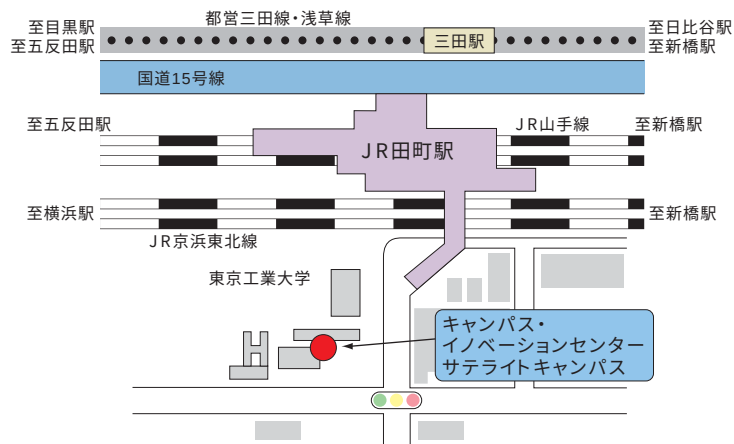
- 共同研究,受託研究,研究プロジェクト等,産学官連携,関連企業等との連絡調整・技術相談
- 企業ニーズ等を身近に感じた新規プロジェクトの提案・相談
- 迅速な初動を重点とした企業等との連絡・相談
- 知的財産の管理・活用における企業,弁理士等との連絡・相談

所在地:〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター6階 604オフィス(20m²)
電話:03-5440-9104(FAX兼用)
<http://www.b-info.jp/tokyosatellite>



▲東京サテライト604オフィス

◇キャンパス・イノベーションセンター周辺マップ



▲共用利用スペース

工学資源学部通信教育講座

Education by Correspondence Course

通信教育講座は、国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育です。8コースで構成されており、18歳以上で高卒程度の学力があれば、添削指導などを通して系統立てて勉強することができます。1科目だけの科目履修生にもなれます。なお、受講申込みは随時受け付けています。(http://www.eng.akita-u.ac.jp/)

●コース・受講生数及び修了生数

昭和25年4月～平成19年5月現在

課 程	現受講生数	修了生
地 球 科 学 コ ー ス	45	84
資 源 開 発 コ ー ス	23	26
材 料 工 学 基 礎 コ ー ス	25	17
材 料 工 学 専 門 コ ー ス	3	10
電 気 ・ 電 子 基 礎 コ ー ス	67	55
電 気 系 専 門 コ ー ス	7	16
電 子 系 専 門 コ ー ス	11	13
一 般 科 学 技 術 コ ー ス	29	26
採 鉱 ・ 地 質 課 程		457
冶 金 ・ 金 属 材 料 課 程		501
電 気 ・ 電 子 課 程		399
計	210	1,604

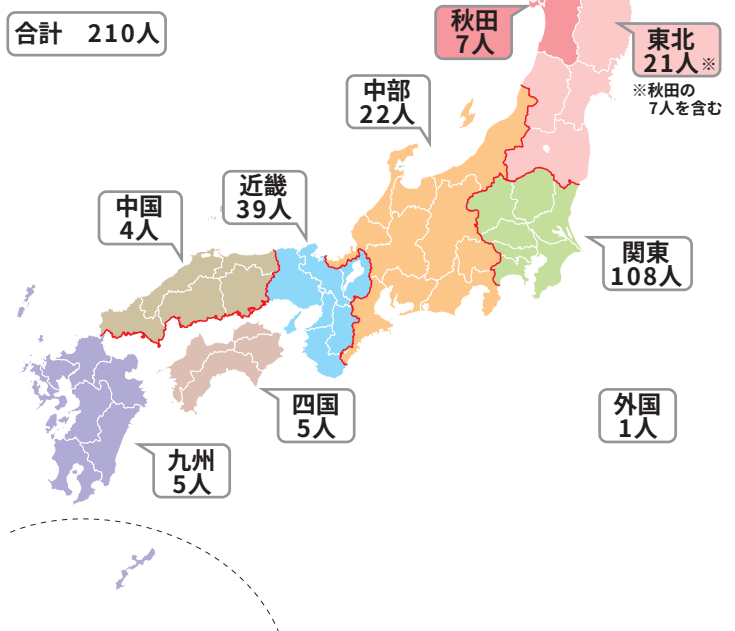


▲平成18年度修了式

平成19年5月1日現在

●地区別受講生分布図

合計 210人



スクーリングの風景

平成19年度大学開放事業

University Open Programs (Academic Year of 2007)

●教育文化学部オープンキャンパス(平成19年10月20日(土))

大学開放事業の一環として、学生による音楽会・各講座における研究に関する展示、研究発表会の公開、実験や実習の体験、教員研究室の公開などを行います。

多くの方々に、楽しみながら教育文化学部の教育・研究活動に触れていただき、地域の皆さんと交流を深める場にするよう計画しています。

●工学資源学部オープンキャンパス(平成19年10月20日(土))

大学開放事業の一環として、学科・研究室を広く一般に公開し、最先端の科学技術を体験していただくことを目的としています。

平成18年度オープンキャンパスの様子(教育文化学部,工学資源学部)



●公開講座

生涯学習機会の提供の一環として、公開講座を開講しています。本学の学習資源を有効に活用していただくために、様々なテーマを設定しております。

今年度開講の講座は、55ページ及び大学ホームページをご覧ください。

(<http://www.akita-u.ac.jp/>)



●工学資源学部の出前講義

工学資源学部では、高校生、小・中学生や市民の皆様、そして、企業、地方自治体の皆様のためになり、わかりやすくそして面白い講義を用意し、生徒の皆さんには工学の面白いところを、社会の皆様には優しく興味ある話を、「出前講義」として広くご利用いただいております。講義題目一覧はホームページをご覧ください。

(<http://www.eng.akita-u.ac.jp/>)

平成19年度主な課外行事

Main Extracurricular Events (Academic Year of 2007)



今日歩(きょうほ)大会 6/2(土)～3(日)

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して,大学まで約40キロの道のりを走(踏)破するもので,学生・教職員及び一般市民約500人が参加して行われる,大学の名物行事です。



大学祭 10/20(土)～21(日)

各学部間の交流,また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し,学内外を問わず親しまれている行事です。



第58回東北地区大学総合体育大会 6/15(金)～7/2(月)

東北地区の国・公・私立の49大学による総合体育大会で,男女合わせて28種目の競技が行われます。平成19年度は仙台市内が会場となります。



全学駅伝大会 11/3(土)

学生同士や,学生と教職員との交流を深め,スポーツマン精神を養うことを目的に,男女合わせて約30チームが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。



サークルリーダー合宿研修会 9月下旬

課外活動団体のリーダーを中心に,日々の活動に必要な知識やAED(自動体外式除細動器)の取扱い等の技術を習得させるとともに,参加者相互の交流や討論を深めるため,毎年実施しています。



スキー合宿研修会 2月中旬

1泊2日の日程で,秋田県営田沢湖スキー場を会場に行っており,初心者から上級者まで各自の技術に合わせて行われる指導で,確実にスキーが上達すると定評があります。

※写真はいずれも前年度以前実施分

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map

教育文化学部

- ① 1号館(管理棟)
- ② 2号館(音楽棟)
- ③ 3号館
- ④ 4号館
- ⑤ 5号館
- ⑥ 附属教育実践総合センター

工学資源学部

- ⑦ 1号館(管理棟)
- ⑧ 1号館(電気電子工学科・土木環境工学科ほか)
- ⑨ 1号館(電気電子工学科)
- ⑩ 2号館(地球資源学科)
- ⑪ 2号館(機械工学科)
- ⑫ 3号館(材料工学科)
- ⑬ 4号館(環境物質工学科)
- ⑭ 5号館(情報工学科)
- ⑮ 附属環境資源学研究センター
- ⑯ 附属ものづくり創造工学センター
- ⑰ 附属鉱業博物館
- ⑱ 附属地域防災力研究センター

共通施設

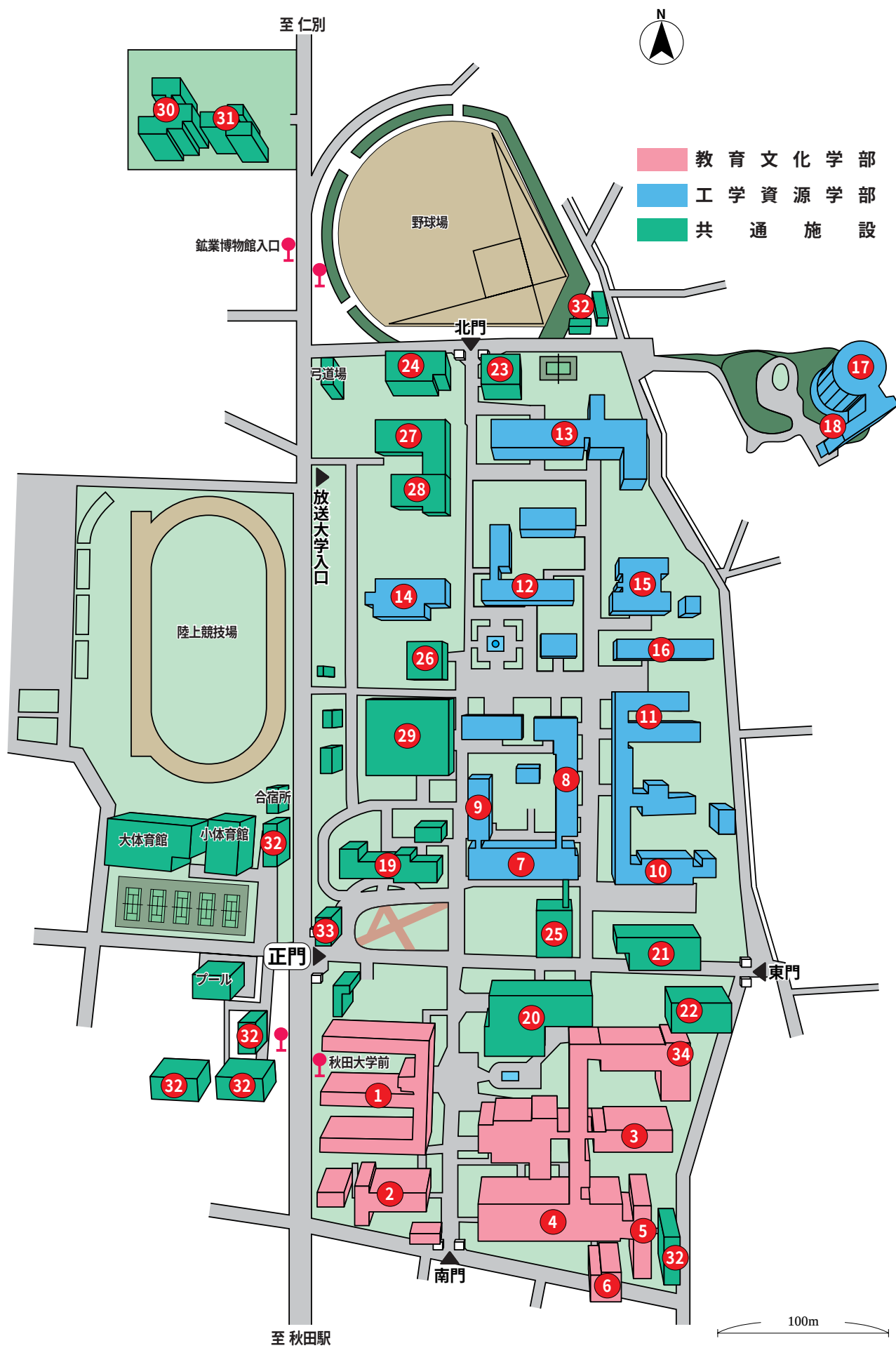
- ⑲ 本部管理棟(事務局),学生支援総合センター,社会貢献推進機構,国際交流推進機構
- ⑳ 附属図書館
- ㉑ 一般教育1号館,教育推進総合センター
- ㉒ 一般教育2号館
- ㉓ 放射性同位元素センター
- ㉔ 地域共同研究センター,知的財産本部
- ㉕ 総合情報処理センター
- ㉖ 保健管理センター
- ㉗ ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー,放送大学秋田学習センター
- ㉘ 総合研究棟
- ㉙ 大学会館(クレール)
- ㉚ 国際交流会館
- ㉛ 女子学生寮(手形寮)
- ㉜ サークル棟
- ㉝ 総合案内所
- ㉞ 評価センター

至仁別



手形地区

至秋田駅



本道地区施設配置図

Hondo Campus Map

1 基礎医学研究棟

2 基礎講義棟

3 学生実習棟

4 バイオサイエンス教育・研究センター
放射性同位元素部門

5 バイオサイエンス教育・研究センター
動物実験部門

6 バイオサイエンス教育・研究センター
分子医学部門

7 臨床医学研究棟

8 管理棟

9 附属図書館医学部分館

10 新病棟(建設中)

11 附属病院外来棟

12 附属病院病棟

13 エネルギーセンター

14 福利厚生施設(本道会館)

15 体育館

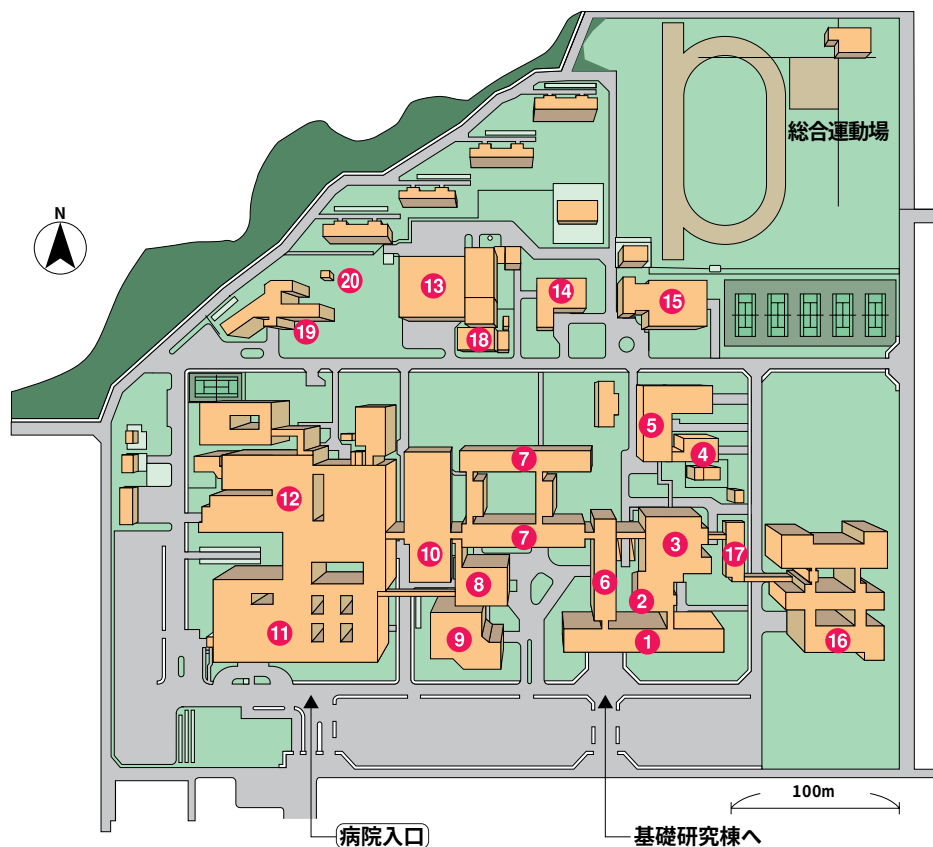
16 保健学科棟

17 医学系研究棟

18 環境安全センター

19 看護師宿舎／女子学生寮

20 納骨堂

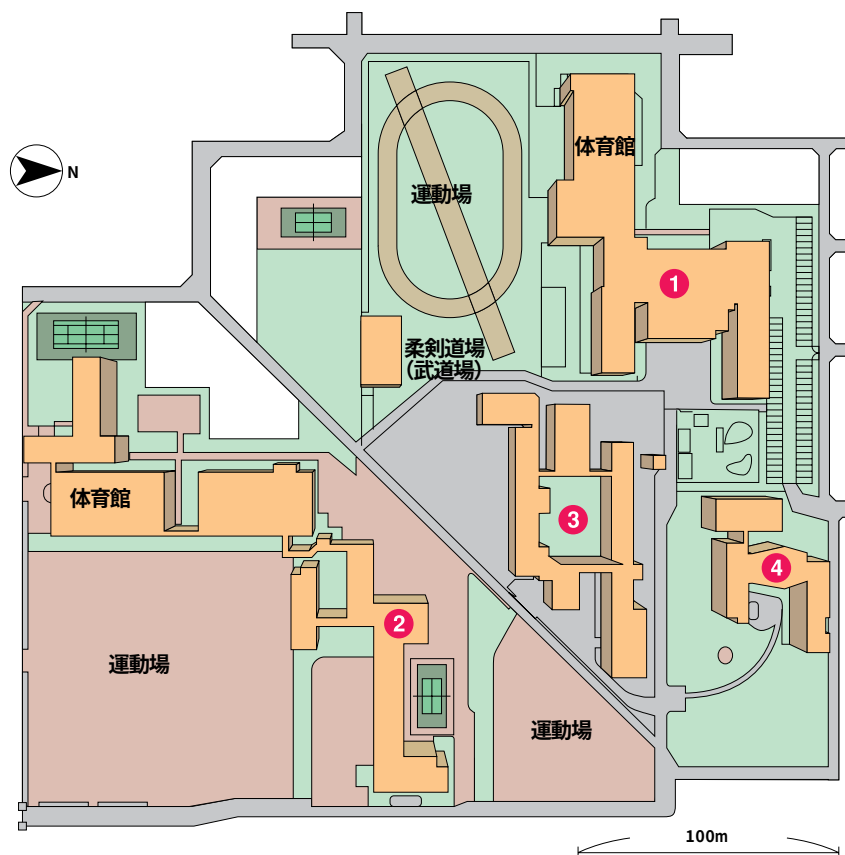


本道地区

保戸野地区施設配置図

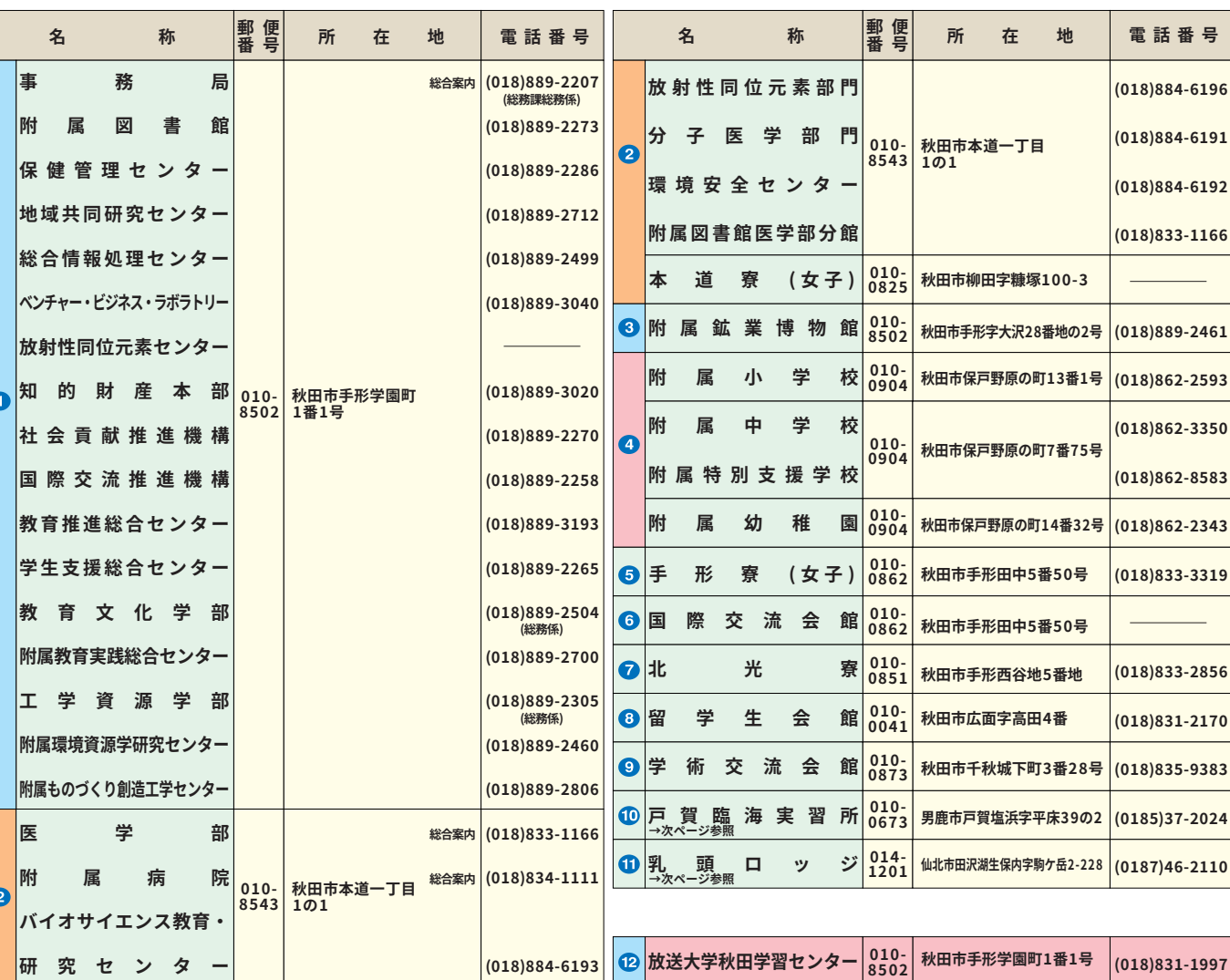
Hodono Campus Map

- ① 附属小学校
- ② 附属中学校
- ③ 附属特別支援学校
- ④ 附属幼稚園



保戸野地区

Location Map and Addresses





リムジンバス

平成19年4月現在

秋田空港から秋田駅までの所要時間

●秋田駅西口発(1番のりば)⇄秋田空港:40分

●秋田駅東口発(4番のりば)←→(高速道経由)秋田空港:25分
「毎日午前・午後の1便運行」

詳細は、次のアドレスをご覧ください。
<http://www.akita-chuoukotsu.co.jp/>

入学志願者・入学状況

学部

平成19年度

学部	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	290	508	789	1,297	119	186	305	4.47
医学部	201	447	534	981	76	132	208	4.88
工学資源学部	460	1,718	211	1,929	425	48	473	4.19

注：外国人留学生及び編入学生を除く。

大学院

平成19年度

研究科		入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
			男	女	計	男	女	計	
教育学研究科(修士課程)		41	24	29	53	14	16	30	1.29
医学系研究科(修士課程)	医科学専攻	5	2	5	7	1	4	5	1.40
	保健学専攻	12	7	20	27	6	14	20	2.25
医学系研究科(博士課程)		30	15	10	25	14	9	23	0.83
工学資源学研究科(博士前期課程)		132	166	26	192	135	21	156	1.45
工学資源学研究科(博士後期課程)		16	13	2	15	13	2	15	0.94

注1：国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く。 注2：工学資源学研究科（博士前期課程）には、再チャレンジ支援特別選抜も含む。

専攻科

平成19年度

専攻科	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
特殊教育特別専攻科	30	3	4	7	2	2	4	0.23

学生の定員・現員

学部

平成19年5月1日現在

学 部	学 科 ・ 課 程	入学定員	収容定員	現 員						
				1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次	計
教育文化学部	学 校 教 育 課 程	100	400	107	109	121	132			469
	地 域 科 学 課 程	65	260	68	68	68	81			285
	国 際 言 語 文 化 課 程	65	260	70	71	74	94			309
	人 間 環 境 課 程	60	240	62	65	59	72			258
	小 計	290	1,160	307	313	322	379			1,321
医 学 部	医 学 科	(5)95	590	97	96	103	107	99	108	610
	保 健 学 科	(14)106	452	114	108	119	116			457
	小 計	(19)201	1,042	211	204	222	223	99	108	1,067
工学資源学部	地 球 資 源 学 科	60	240	62	69	58	55			244
	環 境 物 質 工 学 科	75	300	82	86	96	69			333
	材 料 工 学 科	60	240	64	67	72	64			267
	情 報 工 学 科	50	200	60	63	47	58			228
	機 械 工 学 科	(10)80	340	94	89	115	96			394
	電 気 電 子 工 学 科	(10)80	340	93	101	93	108			395
	土 木 環 境 工 学 科	55	220	63	56	68	52			239
	各 学 科 共 通	(10)	20							
	小 計	(30)460	1,900	518	531	549	502			2,100
合 計		(49)951	4,102	1,036	1,048	1,093	1,104	99	108	4,488

注：（ ）内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。収容定員は3年次編入学定員を含んだ数である。

大学院

平成19年5月1日現在

研 究 科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員				計
				1 年	2 年	3 年	4 年	
教 育 学 科	学 校 教 育 専 攻	10	20	11	13			24
	教 科 教 育 専 攻	31	62	20	19			39
	小 計	41	82	31	32			63
医 学 系 科	医 科 学 専 攻	5	5	5	—	—	—	5
	保 健 学 専 攻	12	12	20	—	—	—	20
	小 計	17	17	25	—	—	—	25
	医 学 専 攻	30	30	23	—	—	—	23
	小 計	30	30	23	—	—	—	23
医 学 科	構 造 機 能 系 専 攻	※2		—	—	2	2	4
	病 理 病 態 系 専 攻			—	—	—	4	4
	社 会 医 学 系 専 攻			—	1	2	6	9
	内 科 系 専 攻			—	13	16	21	50
	外 科 系 専 攻			—	16	8	22	46
	小 計			—	30	28	55	113
	医 学 第 一 系 専 攻	※1					0	0
	医 学 第 二 系 専 攻						0	0
	医 学 第 三 系 専 攻						2	2
	小 計						2	2

※1:平成13年度から
学生募集停止
※2:平成19年度から
学生募集停止

研 究 科	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 前 期 課 程		博 士 後 期 課 程			計
				1 年	2 年	1 年	2 年	3 年	
工 学 資 源 学 科	地 球 資 源 学 専 攻	18	36	17	20				37
	環 境 物 質 工 学 専 攻	24	48	34	21				55
	材 料 工 学 専 攻	18	36	18	20				38
	情 報 工 学 専 攻	16	32	22	17				39
	機 械 工 学 専 攻	22	44	26	29				55
	電 気 電 子 工 学 専 攻	22	44	32	27				59
	土 木 環 境 工 学 専 攻	12	24	11	13				24
	資 源 学 専 攻	4	12			1	4	1	6
	機 能 物 質 工 学 専 攻	4	12			7	7	4	18
	生 産 ・ 建 設 工 学 専 攻	4	12			1	3	4	8
	電 気 電 子 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	4	12			7	2	6	15
	小 計	148	312	160	147	16	16	15	354

研 究 科	専 攻	入学定員	収容定員	博 士 前 期 課 程		博 士 後 期 課 程			計
				1 年	2 年	1 年	2 年	3 年	
鉦 山 学 科 ※平成14年度から 学生募集停止	資 源 ・ 素 材 工 学 専 攻	※		—	—				—
	物 質 工 学 専 攻			—	—				—
	情 報 工 学 専 攻			—	—				—
	機 械 工 学 専 攻			—	—				—
	電 気 電 子 工 学 専 攻			—	—				—
	土 木 環 境 工 学 専 攻			—	—				—
	地 球 工 学 専 攻					—	—	1	1
	機 能 物 質 工 学 専 攻					—	—	1	1
	シ ス テ ム 工 学 専 攻					—	—	0	0
	小 計			—	—	—	—	2	2
合 計									582

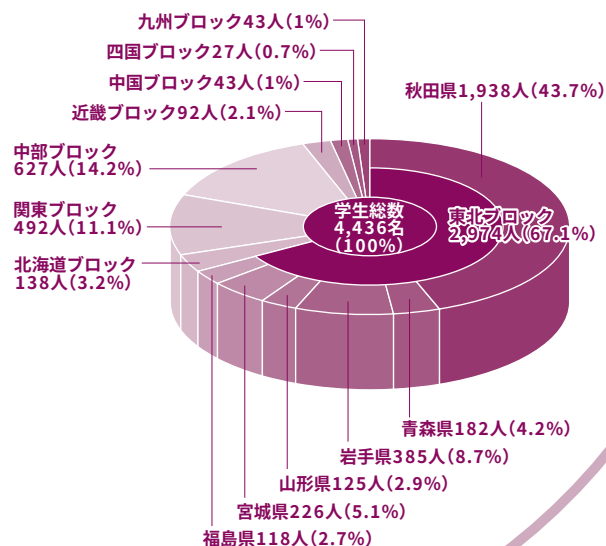
専攻科

平成19年5月1日現在

専 攻 科	専 攻	入 学 定 員	現 員
特 殊 教 育 特 別 専 攻 科	知 的 障 害 教 育 専 攻	30	4

出身高校所在地別在学生分布図

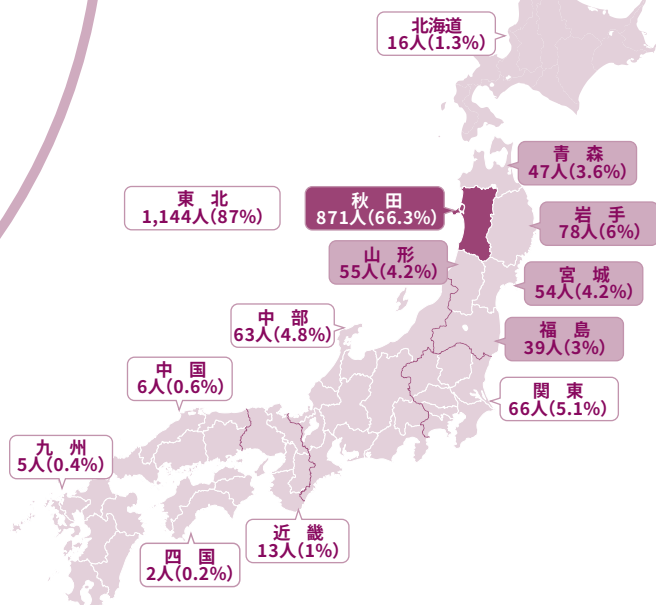
学生総数 (学部学生)



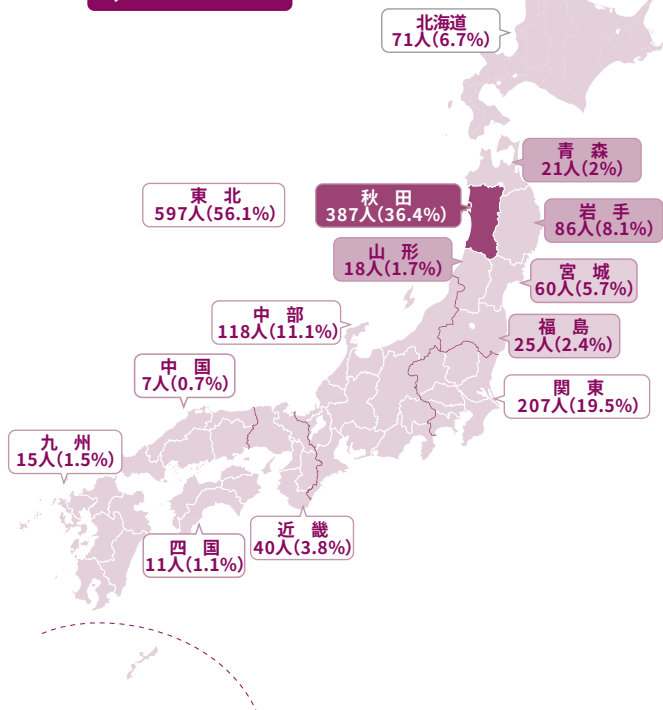
注:学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

平成19年5月1日現在

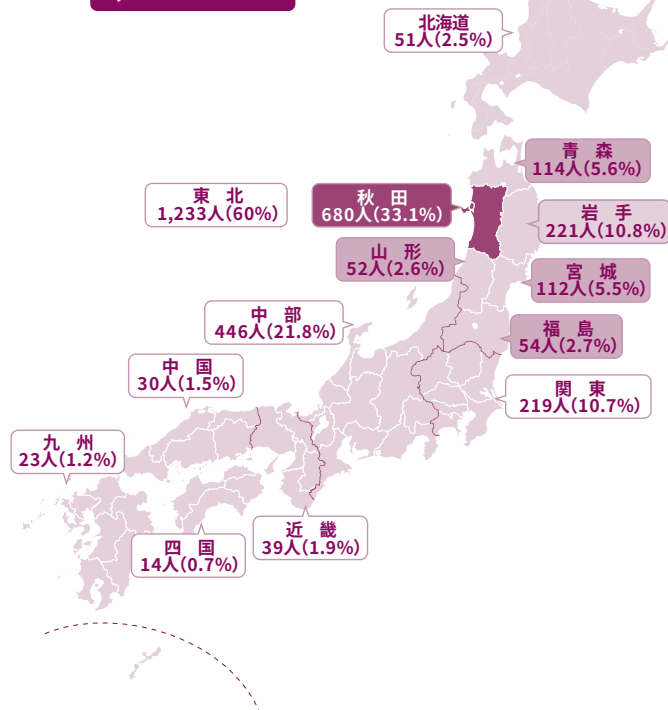
教育文化学部 1,315人(100%)



医学部 1,066人(100%)



工学資源学部 2,055人(100%)



卒業者数・修了者数

学部,大学院,専攻科

学 部			大 学 院			専 攻 科		
区 分	18 年度	累 計	区 分	18 年度	累 計	区 分	18 年度	累 計
教育文化 学 部	299	1,723	教 育 学 科 研 究 学 科	34	595	教育専攻科		78
教育学部		14,519				特殊教育特別専攻科	4	208
医 学 部	202	3,124	医学研究科	29	687			
工学資 源 部	460	2,676	工学資源学研究科 (博士前期課程)	125	527	鉦 山 学 科 専 攻		58
			工学資源学研究科 (博士後期課程)	5	22			
鉦 山 学 部		14,522	鉦山学研究科 (修士課程)		1,270			
			鉦山学研究科 (博士前期課程)		1,012			
			鉦山学研究科 (博士後期課程)	0	123			
計	961	36,564	計	193	4,236	計	4	344

注：鉦山学専攻科……………昭和40年3月廃止
 教育専攻科……………平成元年3月廃止
 鉦山学研究科(修士課程)……………平成9年3月廃止
 教育学部……………平成10年4月教育文化学部に変更・改称
 鉦山学部……………平成10年4月工学資源学部に変更・改称
 鉦山学研究科……………平成14年4月工学資源学研究科に変更・改称

医療技術短期大学部

学 科	18年度	累 計
看 護 学 科	0	1,015
理 学 療 法 学 科	0	246
作 業 療 法 学 科	1	254

注：平成15年度から学生募集停止 医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

卒業生等就職状況

平成18年度(平成19年5月1日現在)

区 分		卒 業 者 数	進 学 者 数	就職者数		産 業 別 就 職 者 数																												そ の 他
						県 内	県 外	農 林 水 産	鉱 業	建 設 業	製 造 業	電 気 ・ ガ ス 等 業	情 報 通 信 業	運 輸 業	卸 ・ 小 売 業	金 融 ・ 保 険 業	不 動 産 業	飲 食 ・ 宿 泊	医 療 ・ 福 祉	教 員						そ の 他 教 育 学 習 支 援 業	複 合 サ ー ビ ス 業	サ ー ビ ス 業	公 務 員			そ の 他		
				幼 稚 園	小 学 校															中 学 校	高 等 学 校	高 専 ・ 大 学 等	盲 ・ 聾 ・ 養 育 計	国 家	地 方				公 務 員 の 計					
学 部	教育文化学部	299	31	244				1	10	1	22	10	14	35	5	6	8			4	25	11	3		5	48	14	6	40	2	22	24		24
				131	113																													
	医 学 部	202	5	185														185															12	
				82	103																													
	工学資源学部	460	157	288	1	3	32	159	9	35	5	2	3	3			2									1	9	6	4	12	16	2	15	
部	小 計	962	193	717	1	3	33	169	10	57	15	16	38	8	6	195	4	25	11	3		5	48	15	15	46	6	34	40	2	51			
				254	463																													
大 学 院	教育学研究科	34	1	19						1		1					3		4	2	2	3	1	12		1			1	1		14		
				12	7																													
	医学研究科	29		27													27															2		
				24	3																													
	工学資源学研究科	130	6	121		7	9	80	3	14	1						1								1				4	4	1	3		
院	小 計	193	7	167		7	9	80	3	15	1	1					31		4	2	2	3	1	12		2			5	5	1	19		
				45	122																													
特 殊 教 育 特 別 専 攻 科		4		4																				4	4									
				2	2																													
医 療 技 術 短 期 大 学 部		1		1													1																	
				1																														
合 計		1159	200	889	1	10	42	249	13	72	16	17	38	8	6	227	4	29	13	5	3	10	64	15	17	46	6	39	45	3	70			
				302	587																													

学位授与数／日本学生支援機構奨学生

学位授与数

平成19年5月1日現在

区	分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	累計
教育学研究科	修士(教育学)	52	41	35	32	34	595
医学研究科	博士(医学)(課程)	26	36	37	30	29	687
	博士(医学)(論文)	13	17	9	11	7	574
	小計	39	53	46	41	36	1,261
工学資源学研究科	修士(工学)	0	121	140	136	123	520
	修士(資源学)	0	2	1	2	2	7
	博士(工学)(課程)	0	0	9	7	5	21
	博士(資源学)(課程)	0	0	0	1	0	1
	博士(工学)(論文)	0	0	0	2	3	5
	博士(資源学)(論文)	0	0	0	0	1	1
	小計	0	123	150	148	134	555
鉱山学研究科	修士(工学)	115	1	1	0	0	2,252
	修士(資源学)	3	0	0	0	0	30
	博士(工学)(課程)	15	17	4	0	0	117
	博士(資源学)(課程)	1	0	0	0	0	6
	博士(工学)(論文)	2	4	7	0	0	31
	小計	136	22	12	0	0	2,436
合計		227	239	243	221	204	4,847

日本学生支援機構奨学生

平成19年6月1日現在

区	分	第一種	第二種	計	学生数	対学生比(%)
学部	教育文化学部	210	319	529	1,321	40.0
	医学部	158	254	412	1,066	38.6
	工学資源学部	291	511	802	2,100	38.2
	小計	659	1,084	1,743	4,487	38.8
大学院	修士・博士前期課程	111	67	178	395	45.1
	博士・博士後期課程	11	—	11	185	5.9
	小計	122	67	189	580	32.6
専攻科		1	—	1	4	25.0
合計		782	1,151	1,933	5,071	38.1

平成18年度学生表彰受賞者

学術研究活動関係 (学術研究活動において顕著な業績を挙げた学生)

賞	氏 名	所 属	業 績 内 容
優秀賞	西尾 美希	医学研究科病理病態系専攻 4年	細胞の遊走機構に関する研究を一貫して行っており、その研究活動により遊走制御に關与するリン脂質を特定した。また、その代謝制御に關与する酵素の同定に成功した。 成果は、細胞生物学ジャーナルの最高峰であるNature Cell Biology 2007 1月号にArticleとして掲載された。この論文は、同誌のNew&ViewsやNature Reviews Molecular Cell Biology 誌のResearch Highlightsにも取り上げられ、注目を集め、高い評価を得ている。
奨励賞	利部 慎	教育学研究科教科教育専攻 社会科教育専修 2年	2005年日本地下水学会秋季講演会において「地下水人工涵養(池法)の実施:地下水堆の形成と地下水温の対応」について講演し、平成18年5月「若手優秀講演賞」を受賞した。
奨励賞	中里 慎吾	工学資源学部地球資源学科 4年	①第15回ソノケミストリー討論会にて進歩賞受賞 発表題名「リチウムイオン二次電池用鉄系正極材料Fe ₃ PO ₇ の超音波照射合成」 ②平成18年度日本セラミックス協会東北北海道支部研究発表会にて優秀発表賞受賞 発表題名「高周波数超音波を水溶液へ照射することによるFe ₃ PO ₇ 合成」 超音波の化学作用を利用し、鉱山ヘルメットライト用の新規電池の合成方法について発表した。両学会では初めての試みであり、新しい研究を提案できた。

課外活動関係 (課外活動において顕著な成績を挙げた学生)

賞	氏 名	所 属	種 目・成 績	大 会 名
優秀賞 (個人)	佐藤 宝	教育文化学部 地域科学課程 4年	国体スピードスケート 成年女子1,000m 個人2位	第62回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会 第23回ユニバーシアード冬季競技大会
奨励賞 (団体)	柔道部		団体3位	第48回全国国立大学柔道優勝大会
奨励賞 (団体)	医学部 女子ソフトテニス部		団体優勝	第49回東日本医科学生総合体育大会
奨励賞 (個人)	石井 直人	教育文化学部 学校教育課程 4年	柔道100kg超級 優勝	平成18年度東北学生柔道体重別選手権大会
奨励賞 (個人)	飯田 哲也	教育文化学部 学校教育課程 4年	柔道60kg級 優勝	平成18年度東北学生柔道体重別選手権大会
奨励賞 (個人)	本間 敬一	教育文化学部 学校教育課程 2年	陸上競技三段跳 優勝	第59回東北学生陸上競技対校選手権大会
奨励賞 (個人)	山本 千夏 菅原 和江	医学部医学科 4年	ソフトテニスダブルス 優勝	第49回東日本医科学生総合体育大会
奨励賞 (個人)	三浦 結子	医学部保健学科 4年	柔道 優勝	第49回東日本医科学生総合体育大会

社会活動関係 (社会活動において顕著な業績を挙げた学生)

賞	氏 名	所 属	内 容
優秀賞	阿部 雅龍	工学資源学部機械工学科 3年	H17.5~H18.2にかけて、南米大陸一万キロを、単独・自転車での縦断をやり遂げた。用意周到な計画と準備、現地の厳しい状況への適切な対応、計画を貫徹しようとする強い意志による快挙である。このことは、マスコミを介して社会的に広く話題となった。学内外で回を重ねる報道があったことは社会的評価の高かったことの証左である。
奨励賞	消費者啓発グループ	教育文化学部地域科学課程 山 尾 大 介 4年 板 橋 恵美子 2年 長谷部 友 美 2年 長 門 将 志 2年 田 中 寿 享 2年	平成18年度開講の「消費者問題論」の授業の一環として提言書「高齢者への啓発方法」を取りまとめ、ACAPの募集した「第22回ACAP消費者問題に関する私の提言」に応募し、佳作として入賞した。 ACAP:財団法人消費者関連専門家会議、1980年創立、会員起業500社

外国人留学生数

平成19年5月1日現在

区 分 国 別	学 部 学 生						小 計	大 学 院 学 生						小 計	研究生等		合 計		
	教育文化 学 部		医 学 部		工学資源 学 部			教 育 学 研 究 科		医 学 系 研 究 科		工学資源 学研究科							
	国費 ※1	私費 ※2	※1	※2	※1	※2		※1	※2	※1	※2	※1	※2		※1	※2		※1	※2
中 国		3			1	24	1	27	1	2	1	3		9	2	14	2	7	53
マレーシア				1		24		25						1					26
韓 国		2						2									1	14	17
モ ン ゴ ル		1				3		4											4
ベ ト ナ ム						3		3											3
台 湾														2		2			2
ミャンマー													2		2				2
ド イ ツ																		2	2
オーストラリア																		1	1
タ イ												1				1			1
ペ ル ー						1		1											1
パキスタン														1		1			1
バブアニューギニア													1		1				1
インドネシア						1		1											1
ガ ー ナ													1		1				1
南アフリカ													1		1				1
計	0	6	0	1	1	56	1	63	1	2	1	4	5	13	7	19	3	24	117

注1:※1は国費を表す。 注2:※2は私費を表す。 注3:「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示す。 注4:研究生等には科目等履習生及び日研生も含む。

国際交流協定校・外国人研究員・非常勤研究員・外国人客員研究員

国際交流協定校

1. 大学間協定（7カ国等16大学）

国・地域名	大学名	締結年月日
中国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
	中国医科大学	平成元年10月6日
	中南大学	平成16年8月24日
	遼寧工程技術大学	平成17年4月20日
	大連民族学院	平成17年6月27日
	蘭州大学	平成17年8月1日
	新疆医科大学	平成18年2月20日
オーストラリア	グリフィス大学	平成6年6月29日
	ベラルーシ医科大学	平成8年1月22日
アメリカ	セント・クラウド州立大学	平成8年7月24日
韓国	ハンバット大学	平成13年6月8日
	三陟大学	平成17年11月24日
ニュージーランド	オーランド工科大学	平成16年3月17日
台湾	龍華科技大學	平成17年7月15日
	国立台北科技大學	平成17年7月18日

2. 部局間協定（7カ国13学部等）

部局名	国・地域名	大学・学部等名	締結年月日
医学部	中国	中国卫生部北京医院	平成7年11月14日
		华中科技大学同济医学院	平成17年6月1日
工学資源学部	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年6月24日
		ミズーリ大学ローラ校	平成12年12月18日
	中国	東北大学理学院	平成16年3月17日
		清華大学精密儀器与機械学系	平成19年3月1日
	タイ	チェンマイ大学工学部	平成11年7月12日
		チェンマイ大学理学部	平成11年7月12日
	ザンビア	ザンビア大学鉱山学部	平成15年1月20日
		ザンビア大学工学部	平成15年3月12日
	チュニジア	スファックス大学工学部	平成15年12月18日
	ドイツ	フライベルグ大学	平成18年2月22日
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	韓国	国立忠南大学先端磁性材料研究所	平成17年11月29日

●大学間協定 ▲部局間協定



外国人研究員

平成18年度受入実績

部局名	国・地域名	人数
工学資源学部	トルコ共和国	1
	タイ	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中国	1
	アメリカ	1

非常勤研究員

平成18年度受入実績

部局名	国名	人数
工学資源学部	タイ	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中国	7
	韓国	1
	バングラディシュ	1
	ハンガリー	1

外国人客員研究員

平成18年度受入実績

部局名	国名	人数
教育文化学部	中国	3
	韓国	1
	ケニア	1
医学部	中国	4
	ベラルーシ	1
工学資源学部	中国	1
	マレーシア	1

平成19年度公開講座

	講座名	回数(時間)	開催時期	講義 時間帯	募集 人員	受講料
1	子どものいる世界を知る心理学	7回(14時間)	5/9(水) ～6/20(水)	18:00 ～20:00	30	7,200
2	中世の日本音楽-秘すれば花-	6回(12時間)	5/29(火) ～7/3(火)	18:00 ～20:00	30	7,200
3	格差社会における共生の意義を考える	3回(5時間)	7/9(月) ～7/30(月) ※7/16は除く	1・3回目 18:00～19:40 2回目 18:00～20:00	30	5,200
4	不思議な数,円周率 π	4回(6時間)	8/23(木) ～9/13(木)	18:30 ～20:00	30	6,200
5	再認識!身近な健康(仮)	4回(10時間)	9/22(土) ～10/13(土)	13:30 ～16:20	30	6,200

※上記以外にも開催予定です。詳細が決まり次第、随時秋田大学ホームページ(<http://www.akita-u.ac.jp/>)に記載します。

役 員 数

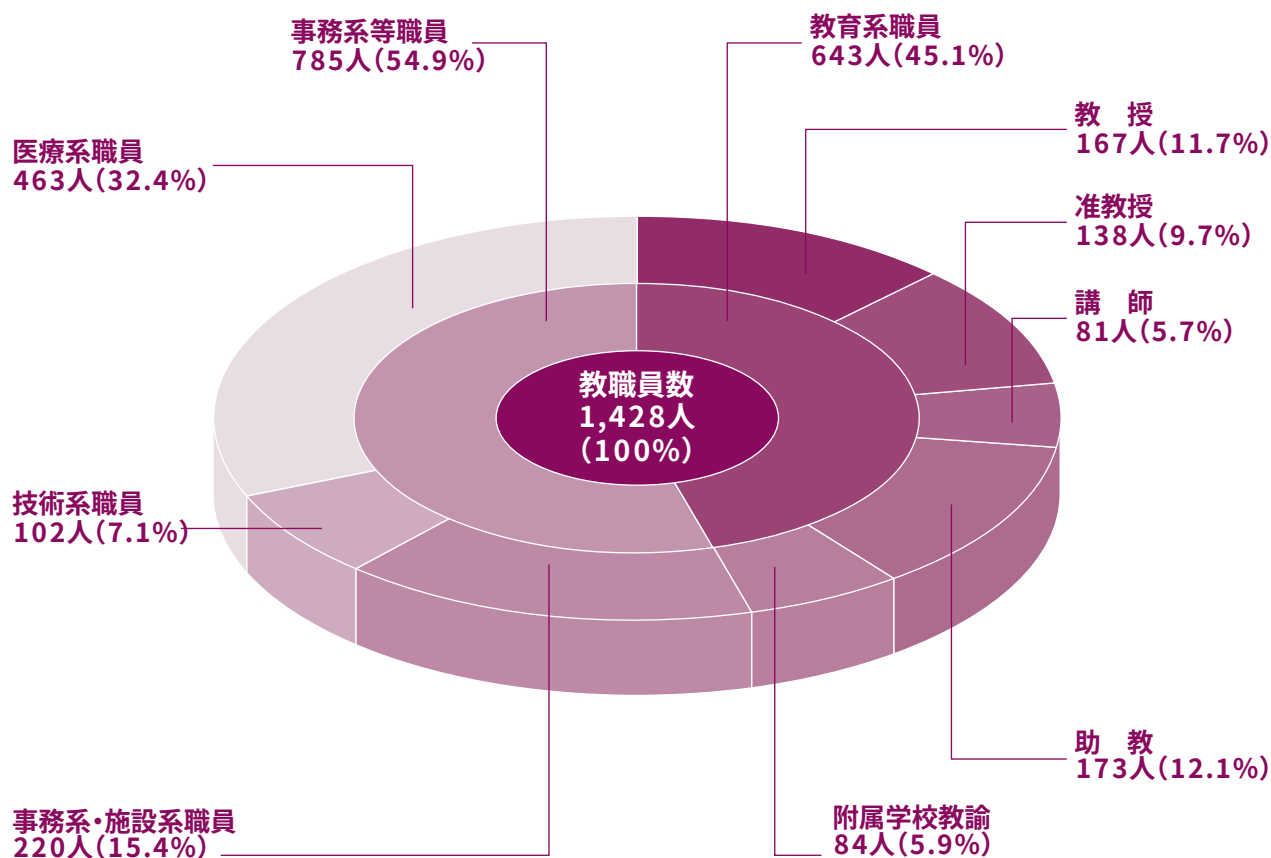
平成19年5月1日現在

区 分	学 長	理 事	監 事	計
学 長	1			1
理 事		5(1)		5(1)
監 事			2(1)	2(1)
計	1	5(1)	2(1)	8(2)

()内は非常勤で内数

教職員数

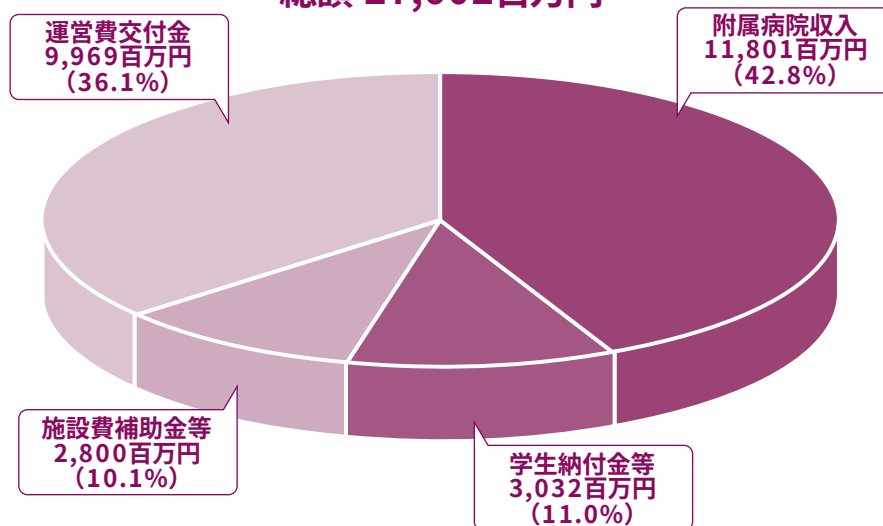
平成19年5月1日現在



平成19年度予算

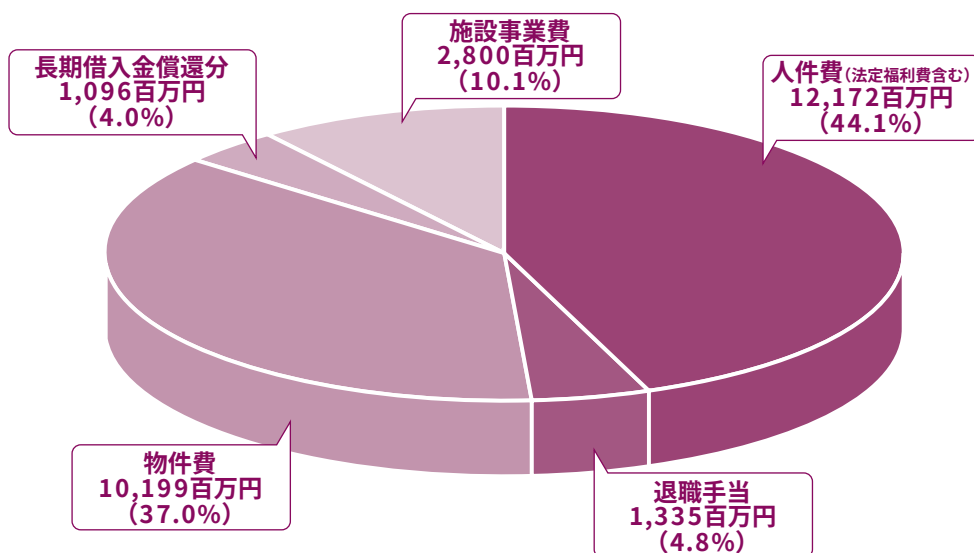
収入

総額 27,602百万円



支出

総額 27,602百万円



※金額は平成19年度予算額であり、上記収入及び支出には産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金受入状況

単位:千円 継続分を含む

名 称	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
民間等との共同研究	40	53,607	50	50,262	46	45,700
受 託 研 究	55	107,000	63	117,758	57	170,009
奨 学 寄 附 金	909	510,022	805	435,566	781	424,225
合 計	1,004	670,629	918	603,586	884	639,934

注 : 受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金を含まない。

平成19年度科学研究費補助金採択状況

※千円未満は切り捨て 平成19年4月内定時点

研 究 種 目	採 択 件 数	交 付 金 額 (千 円)		
		直 接 経 費	間 接 経 費	合 計
特 定 領 域 研 究	6	25,000	—	25,000
基 盤 研 究 (B)	18	85,300	25,590	110,890
基 盤 研 究 (C)	80	119,900	35,970	155,870
萌 芽 研 究	24	29,900	—	29,900
若 手 研 究 (A)	1	7,100	2,130	9,230
若 手 研 究 (B)	51	72,663	—	72,663
若 手 研 究 (スタートアップ)	4	4,980	—	4,980
計	184	344,843	63,690	408,533

刊行物等一覧

刊行物等名

発行回数

発行時期

事務局・学部等

総務部	秋田大学概要 秋田大学広報誌「Aprire(アプリーレ)」 秋田大学だより	年1回 年4回 年6回	6月 6・9・12・3月 偶数月
施設部	秋田大学環境報告書(ホームページにて記載予定)	年1回	9月
学務部	秋田大学入学案内 キャンパスライフ 秋田大学学園だより 秋田大学教養基礎教育研究年報 教育推進総合センターフォーラム	年1回 年1回 年3回 年1回 年2回	6月 4月 4月・9月・1月 3月予定 9月・12月予定
社会貢献・国際交流課	英文大学案内「Welcome to Akita University」/秋田大学概要リーフレット(英語版) 留学案内(英語版)「Guide for International Students」 留学案内(中国語版)「留学指南」 留学案内(韓国語版)「유학안내」 あきた留学生交流	不定期 年1回 年1回 年1回 年1回	 7月 7月 7月 3月
教育文化学部	秋田大学教育文化学部案内 秋田大学教育文化学部案内(英語版) 秋田大学教育文化学部研究紀要(教育科学,自然科学,人文科学・社会科学)	年1回 不定期 年1回	4月 3月
附属教育実践総合センター	教育実践研究紀要 臨床心理相談研究	年1回 年1回	3月 3月
医学部	秋田大学医学部・附属病院概要 秋大病院ネットワーク 秋田大学医学部保健学科案内 秋田大学医学部保健学科紀要	年1回 年2回 年1回 年2回	6月 10月・3月 7月 11月・3月予定
工学資源学部	工学資源学部・大学院工学資源学研究科概要 秋田大学工学資源学部研究報告 学部案内ERA「Engineering Resource Science Akita University」 TEXNE(通信教育講座機関誌)	年1回 年1回 年1回 年1回	6月 10月 4月 3月
附属鉱業博物館	鉱業博物館	年1回	3月
附属図書館	図書館だより 利用者案内	年2回 年1回	4月・10月 4月

学内共同教育研究施設・センター等

地域共同研究センター	秋田大学地域共同研究センター概要 センターニュース 研究成果報告書	年1回 年2回 年1回	6月 4月・11月 3月
総合情報処理センター	秋田大学総合情報処理センター広報	年2回	10月・3月
環境安全センター	秋田大学環境安全センター報	年1回	4月
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	VBL年報	年1回	5月
評価センター	評価センター年報・研究紀要	年1回	3月
保健管理センター	保健管理概要	年1回	12月
知的財産本部	知的財産本部概要	年1回	

土地・建物

(m²)

区 分			建物(延面積)	土 地	
手 形 地 区	本部		8,020	196,697	
	教育文化学部	学部	21,456		
		附属教育実践総合センター			539
	工学資源学部	学部	30,104		
		附属鉱業博物館			3,835
		附属環境資源学研究センター			2,975
	附属図書館		4,129		
	保健管理センター		428		
	地域共同研究センター		1,131		
	総合研究棟		4,266		
	総合情報処理センター		957		
	放射性同位元素センター		338		
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		2,878		
	大学会館		3,040		
	体育関係施設		3,827		
	課外活動施設		1,206		
	職員宿舎(山崎町,住吉町)		157		
	小 計		89,286		
本 道 地 区	医学部		35,513	165,552	
	医学部附属病院		42,537		
	附属図書館医学部分館		1,717		
	体育関係施設		1,079		
	バイオサイエンス教育・研究センター		6,550		
	課外活動施設		207		
	看護師宿舎・女子学生寮		2,997		
	職員宿舎(糠塚)		5,197		
	小 計		95,797		
保 戸 野 地 区	教育文化学部附属小学校		7,680	68,807	
	教育文化学部附属中学校		7,562		
	教育文化学部附属特別支援学校		3,290		
	教育文化学部附属幼稚園		1,212		
	小 計		19,745		
そ の 他	寄宿舍(女子学生寮,北光寮,留学生会館,国際交流会館)		6,069	26,795	
	職員宿舎(休下町,城下町,新栄町,金砂町他)		6,413		
	その他		1,677		
	小 計		14,159		
合 計			218,987	457,851	

秋田県のすがた

人 口

県の人口は約113万人(平成19年4月)で、全国人口の0.9%です。
秋田市の人口は、約33万人で、県人口の約29%です。

面 積

県土の総面積は11,612km²で、南北181km、東西111kmに及び、13市9町3村(平成18年3月)に区画されており、県全体の70.8%を森林が占めています。

気 候

秋田県は日本海沿岸特有の気候で、寒暖の差が大きく、最高・最低気温の差は30℃を超えます。暖候期は主に南東の風が吹いて晴れの日が多く、最高気温は8月には30℃以上にまで上昇します。降水量は9月が特に多く、また、梅雨期は日照時間が少ないものの、太平洋側に比べると晴れの日が多くなります。

県のシンボル(花・鳥・木)



ふきのとう

NHKが郷土の花を
募集したことがきっかけです。
(昭和29年制定)



やまどり

キジ科の鳥で、
主に県内の内陸部の
山地にすみます。
(昭和39年制定)



秋田杉

美しい木目と強い材質が特徴で、
日本三大美林の一つに
数えられています。
(昭和41年制定)

秋田大学概要 平成19年度

【編集発行】

秋田大学総務部広報課

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL:018-889-3019 FAX:018-889-2219

<http://www.akita-u.ac.jp/>